

慈恵大学の  
「今」を伝える  
法人情報誌

# The JIKEI

VOL. 39

2023/Winter

学生時代に生理学の馬詰教授の理科学に憧れて骨格筋研究の道に入った。その馬詰教授は「遠くものは小さく見える。無限大をゼロにする逆数の世界で物理学を考えるとわかりやすくなる」という名取教授の講義に生理学を志したという。研究室では逆数の世界で骨格筋を探る光回折の研究を主題としていた。名取教授以来の天才教育(放置教育)の伝統のもとで教育以外のあらゆる時間を費やして研究に没頭することを許された。

研究がこの上なく楽しかった。教育においては「今のような講義の在り方に疑問を感じる」と漏らした馬詰教授の言葉に、今日という「問題解決型学習」を研究室で独自に始めた。当時は「ちゃんと教育をしていない」という批判も受けたが今日では推奨される教育形態の一つになっているから正解だったのだと思う。注意深い観察で問題点を見出してその原因を探り、解決策を見出して実行することの繰り返し。教育も研究も結局求められる姿勢は同じだと感じた。医学・医療も社会も、そして学生たちも急速に変化している。その変化を探知して対応することが今では仕事の大部分を占めることになった。

東京慈恵会医科大学  
医学部医学科長・教学委員長  
分子生理学講座担当教授

竹森 重

Shigeru Takemori



02 巻頭言

## 本学の看護師育成

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

巻頭特集

03

## 看護学科の過去・現在・未来

—開設30周年を迎えて—

看護学科長 在宅看護学領域教授 北 素子

Ongoing

09 01 教育

認定遺伝カウンセラーの育成：

## 慈恵らしいあらたな医療専門職の育成にむけて

遺伝診療部 診療部長・教授 川目 裕

11 02 研究

## ヒトiPS細胞由来内耳オルガノイドを用いた薬剤性難聴の治療法開発

—高効率な培養法と、世界初の蝸牛神経節細胞様細胞による薬効評価系を確立—

総合医科学研究センター 再生医学研究部 教授 岡野 James 洋尚

13 03 診療

## 内視鏡で肥満症を治す

～内視鏡的スリーブ状胃形成術～

内視鏡医学講座 講座担当教授 炭山 和毅  
講師 土橋 昭

Nursing

15

## 東京慈恵会教務主任養成講習会

～看護師養成所の指導的役割を果たす看護教員リーダー育成 10年間の歩み～

東京慈恵会教務主任養成講習会 企画・運営責任者 興梠 清美

PDC から PDCA へ

16

## 大学の認証評価について

東京慈恵会医科大学学長補佐  
学校法人 慈恵大学 内部質保証推進委員会 委員長 柳澤 裕之

Topics

17

## 本学の伝統と文化が息づく、ドッグセラピー「慈恵犬」の取り組み

総合医科学研究センター・実験動物研究施設・施設長  
(熱帯医学講座・講座担当教授) 嘉糠 洋陸

19 News Flash

- 6月 牧島かれんデジタル大臣(当時)が病院のデジタル化について視察に来られました  
港区長からの表彰(港区の新型コロナウイルスワクチン接種への貢献)
- 7月 2022年度 中高大連携(芝・豊島岡との連携協定締結)・芝高校との「芝漬けゼミ」開講
- 8月 2022年度 高校生を対象とした医療体験実習について
- 9月 第3回高木兼寛記念シンポジウム鹿児島大学、宮崎大学、本学合同にて、オンライン形式で開催
- 10月 第139回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」及び  
「成医会学生ポスター発表賞」の受賞について
- 11月 松尾七重医師へ丸の内消防署長から感謝状が贈呈されました  
～路上で心肺停止状態の男性救護～  
大学初のデジタル庁「デジタル推進委員」への任命について
- 12月 第1回みなと地域感染制御協議会全体会議が開催されました  
令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰 医学教育等関係業務功労者として  
第三病院 菅嶋浩一さん表彰される  
2023年 主な行事予定表

26 Notice

- 大学公報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報) ▪ 補助金・助成金 ▪ プレスリリース ▪ 院内表彰受賞者
- メディア掲載一覧 ▪ 生涯学習・公開セミナー等 ▪ 寄付のお願い ▪ ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介

# 本学の看護師育成

学校法人慈恵大学  
理事長 栗原 敏

本号では、本学の“看護学科開設30周年のあゆみ”が取り上げられています。本学の看護学科は1992年に、医学部の中に医学部看護学科として開設されました。阿部正和第8代学長の発案で、医学部入学定員が削減されたことに伴い、削減された定員を看護学科に振り当てるというものでした。医学科と看護学科が医学部の中にあるという、他大学には例がなかった看護学科の開設を文部省が認可したのです。

学祖・高木兼寛先生は、ロンドンのセント・トーマス病院医学校に留学した際、病院に併設されていたナイチンゲール看護学校(The Nightingale Training School for Nurses)で看護師が教育されていることを知り、日本でも看護婦を育成することが医療に必要だと実感されました。ロンドンで、A Handbook of Nursingというナイチンゲールの看護に関する著書を購入されていたことから、看護婦の育成に対する強い思いを持たれていたことが分かります。

帰国してから看護婦の養成を始めたいと考えましたが、資金がありませんでした。しかし、夫人慈善会の名流婦人達が看護婦養成に賛同して、高木先生に協力を申し出てくれたのです。日本で最初のバザーを鹿鳴館で開催して、その収益によって今日に続く日本で最初の看護婦教育所が開設されたことは特筆すべきことです。

高木先生は、“神に代わりて愛を与えるものこれ医なり”という言葉を残されており、看護は素晴らしいものであることを強調されています。看護職者の社会的地位が必ずしも高くなかった明治時代に、看護職

者に深い理解と愛情を示された高木先生の見識に驚かされます。

当時、京都看病婦学校や桜井女学校附属看護婦養成所でも看護婦の養成が行われましたが、両者とも運営を継続することが困難になり閉鎖されてしまいました。その中で、慈恵の看護婦教育所は、多くの方の理解と支援を得て看護婦(師)の育成が行われてきましたが、特に、明治40年(1907年)社団法人東京慈恵会が、渋沢栄一氏のご尽力によって設立され、その支援を受けて来たことも重要です。このように、本学の看護師育成に、実に多くの方がかわってこられたのは、高木兼寛先生が多くの方から敬愛されていたからだと思います。

看護学科開設30周年を迎えて、これまで歩んできた道を振り返るとともに、今後を見据えて、本学における看護師育成のあるべき姿を考えることが求められていると思います。

「慈恵の人」の連載シリーズでは、分子生理学講座の竹森重教授(教学委員長・医学科長)によって、名取禮二・第7代学長が紹介されています。名取先生の専門は筋生理学で、skinned fiber(名取の線維)を創出され、筋生理学研究の発展に多大な業績を上げられました。先生のご業績は高い評価を受け、昭和61年(1986)に文化勲章を受章されています。卓越した生命観を持っておられ多くの生命科学者に多大な影響を与えられました。私自身、先生から間接的に、ある時は直接的に多くのことを学びました。多くの若い方に生命とは何かを考えていただきたいと思います。





# 看護学科の過去・現在・未来

## —開設30周年を迎えて—

本学看護学科は、令和4(2022)年記念すべき30周年を迎えた。これに至るまで、たゆまず尽力いただいた教職員の皆さま、看護学教育をご支援いただいた大学関係者の皆さまに、看護学科を代表し、この場を借りて心より感謝申し上げたい。本稿では、看護学科の30年を振り返るとともに、看護学科の現状と展望を論じたい。



看護学科長  
在宅看護学領域教授  
**北 素子**

### ◆看護学科30年のあゆみ

本学看護学科は、第8代学長、阿部正和先生のもと、平成4(1992)年に学生定員30名という少数精鋭教育を実践する看護系大学、そして医学部の中に医学科と並列する看護学科として開設された。以来、学生定員数は40名を経て、現在では60名となり、1,074名の卒業生を送り出している。12番目の看護系大学として開設されたが、その後、看護学教育の大学化は急速に進展した。現在看護学士教育は280校296課程で行われており、さらにその数は増加が見込まれる。一方、18歳人口の減少が進んでいる。このような中で、本学看護学科が看護を目指す優秀な受験生に選ばれ続けるためには、めまぐるしく変化する社会からの要請に応じて教育内容

や方法、組織全体を柔軟に変革し続けていくこと、そして伝統を継承しその独自性を洗練させていくことが必要である。



年度	看護学科のあゆみ	歴代学長・開設設備	社会の出来事
昭和61年(1986)	第8代阿部正和学長の諮問により「慈恵における看護教育レベルアップに関する調査検討委員会」発足 上記委員会より「慈恵における看護教育レベルアップに関する調査検討報告書」を答申	阿部正和学長 昭和57年～平成4年	バブル景気始まる チェルノブイリ原発事故
昭和62年(1987)	「医学部看護学科設置準備委員会」設置 文部省に「大学設置認可申請書」「寄付行為変更認可申請書」「文部大臣の指定する看護婦学校等の指定申請(事前に必要な書類)」を提出(6月29日)	柏病院開設	国鉄分割JR誕生 利根川進氏ノーベル医学生理学賞 サラダ記念日
平成3年(1991)	国領の地に看護学科校舎竣工式(11月7日) 東京慈恵会医科大学医学部看護学科の設置認可(12月20日) 吉武香代子教授(基礎看護学)が看護学科初代学長に就任(平成9年3月まで)		電通事件過労自殺 雲仙普賢岳火砕流 ソビエト連邦崩壊
平成4年(1992)	看護学科開学式(1月24日) 第1回入学試験(2月10日) 募集定員30名 応募者数333名 第1期生31名入学(4月1日)	岡村哲夫学長 平成4年～13年	バルセロナ五輪 バブル崩壊 スペースシャトルで毛利さん宇宙へ
平成7年(1995)	完成年度を迎える		阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件 マザーテレサ死去 地球温暖化防止京都議定書採択
平成9年(1997)	斎藤禮子教授(小児看護学)が第2代看護学科長に就任(平成13年3月まで)		
平成11年(1999)	文部省視学委員実地視察(12月6日)	本院中央棟竣工	国内初脳移植
平成13年(2001)	第10代栗原敏学長が第3代看護学科長を兼任(平成20年3月まで) 看護学科開設10年 記念誌「東京慈恵会医科大学医学部看護学科10年の歩み」発行	栗原 敏学長 平成13年～平成25年 本院総合母子健康医学センター開設	アメリカ同時多発テロ事件
平成15年(2003)	第1回カリキュラム改正(社会の要請に十分対応できる看護実践者の要請を目指した抜本的改正)	大学基準協会適合認定 同窓会看護学科支部発足	SARS流行
平成19年(2007)	募集定員40名に増員	第三病院森田療法センター開設	第1回東京マラソン
平成20年(2008)	藤村龍子教授(成人看護学)が第4代看護学科長に就任(平成23年3月まで)		iPhone発売 北京オリンピック
平成21年(2009)	第2回カリキュラム改正(保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴う) 医学研究科看護学専攻修士課程が西新橋キャンパスに開設		新型インフルエンザ流行 世界同時不況
平成23年(2011)	櫻井美代子教授(老年看護学)が第5代看護学科長に就任(平成27年3月まで) 看護学科開設20年記念行事(10月29日) 記念講演・シンポジウム		東日本大震災 なでしこジャパンW杯優勝
平成24年(2012)	第3回カリキュラム改正 (保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴う) 保健師教育課程の選択制導入 定員19名	葛飾医療センターオープン	ロンドンオリンピック 山中伸弥氏ノーベル医学生理学賞
平成25年(2013)	募集定員60名に増員 看護学科校舎増改築 記念講演会・内覧会(4月13日) 主体的学習を強化するe-ポートフォリオシステムを開発・導入した教育を開始	松藤千弥学長 平成25年～	富士山世界文化遺産
平成26年(2014)	第11回日本e-Learning大賞e-ポートフォリオ部門賞を受賞 (一般社団法人オンライン教育産業協会主催)		STAP細胞問題 消費税8% デング熱流行
平成27年(2015)	北素子教授(在宅看護学)が第6代看護学科長に就任	慈恵看護教育130年記念式典 国際交流センター開設	大村智氏ノーベル医学生理学賞 中東難民欧州に殺到
平成28年(2016)	看護学科開設25周年 第1回看護学科ホームカミングデー(以後定例開催) 第1回看護学科ファブール祭(慈恵祭の一部として以後定例開催) 英国ロンドンKing's College of Florence Nightingale Faculty of Nursing and Midwiferyとの間で協定を締結し、看護学生の交換留学制度(選択実習)がスタート		リオオリンピック 熊本地震
平成29年(2017)	第4回カリキュラム改正(課題解決能力・地域医療連携能力強化型カリキュラム:3P 【Admission Policy, Diploma Policy, Curriculum Policy】への対応)		天皇退位表明
平成30年(2018)	地域連携看護学実践研究センター (JANPセンター:Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community) 開設		働き方改革 本庶佑氏ノーベル医学生理学賞
平成31年(2019)	大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程開設 シンガポール国立大学看護学科との間で協定を締結し交換留学制度を開始 台湾国立大学看護学科との間で交換留学制度協定を締結 看護学科保護者を設立	高木兼寛生誕170年	令和へ代わり 消費税10% ラグビーW杯日本大会
令和2年(2020)	新型コロナウイルス感染症拡大により一時すべての授業をICT活用による遠隔授業に切り替えて実施。以後、対面と遠隔のハイブリッド形式の授業にて対応する。 8月臨時実習再開となる。	本院新外来棟オープン	コロナ感染拡大 緊急事態宣言 はやぶさ2帰還
令和3年(2021)	看護学教育委評価受審(日本看護学教育評価機構:JABNE)「適合」の評価を得る 看護学科臨床教員制度の導入 学校推薦型選抜試験と英語資格・検定試験の導入		2020東京オリンピック開催 大谷翔平メジャーMVP コロナワクチン接種 「大学入試センター試験」に代わり 「大学入学共通テスト」始まる
令和4年(2022)	看護学科開設30周年 記念式典・記念講演会を開催 新型コロナウイルス感染症への対策の下、大学2号館大講堂にて開催される。 記念誌の発行		ロシアのウクライナ侵襲 2022FIFAワールドカップカタール大会日本代表ドイツ・スペイン代表を破りベスト16



## 看護学科の現在

### —社会の変化に対応した教育内容や組織の変革への取り組み—

看護学科の教育は、その理念に示される通り、開設以来、資質の高い看護実践者の育成に重きが置かれ、実践されてきた。その教育理念のもと、その時々、社会的要請に応じてカリキュラム改定を行ってきたが、平成29年度に、課題解決能力と地域医療連携能力の強化を中心に据え、4回目となる比較的大きなカリキュラム改定を実施した。時期を一にして、学士課程における「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が示されたこともあり、その内容も踏まえたものとした。また、学校教育法施行規則、大学設置基準の改正により、3つのポリシーの策定と公表が大学に要請された時期とも重なり、看護学科としてのディプロマポリシー（以下DP）、カリキュラムポリシーを明確に定め、それに基づいてカリキュラムを構築した。

本学看護学科が定めたDPは、主体的学習能力、課題解決能力、パートナーシップ、地域医療連携能力、倫理的姿勢、教養に裏付けられた品格を備えた態度、メンバーシップ・リーダーシップ、国際的視野の8つである。これらの力を4年間で着実につけられるよう、科目を配置するとともに、DP達成をサポートする、様々な仕組みを準備している。

まず、主体的学習能力を涵養することを目指して導入しているe-ポートフォリオシステムを挙げたい。主体的学習能力は、生涯にわたり研鑽し続けることができるよう、主体的に学習に取り組む力と定義される。この力を1年次から着実に身に着けるための仕掛けとして、初めて1学年60名となった平成25年度入学生からe-ポートフォリオシステムを活用した教育を行っている。e-ポートフォリオは学生が自発的に学びの伸びや変容を多角的、かつ長期的に評価し、新たな学びに生かすことができるよう、ウェブ上に設定された学習成果物を集めた学びのファイルである。これを4年間一貫の背骨科目で活用し、学生自身が将来像とゴールを設定し、リフレクションをおこないながら、主体的にそのゴールに向かって学修を進め、成長していくことをサポートしている。

看護の課題解決は、患者さんやご家族との関係性、パートナーシップと密接に結びついている。その力を涵養するためにシミュレーション教育の強化を行っている。2020年新型コロナウイルス感染症の拡大により、本学でも対面授業、臨地実習がストップした。なかでも看護学教育において臨地実習は、学生が看護実践力を獲得する機会として、そしてなにより、患者さんや

そのご家族、病院や地域で働くスタッフとのかかわりを通して成長を遂げる機会として重要な位置を占めている。本学では、幸いなことに大学や感染対策専門家のバックアップ、そして臨床現場のご理解により、臨地実習を比較的早期に再開することができたが、この間学生たちが受けた影響は甚大であった。それをカバーするため、積極的にシミュレーション教材の開発と、それを生かした教育を強化している。令和2（2020）年度には、感染防御に関わる看護技術の修得、感染症患者さんへの看護を理解するためのVRシミュレーション教育を、本年度は、メタバースでのアバターによるコミュニケーショントレーニング教材を開発し、実習前の準備教育を行っている。

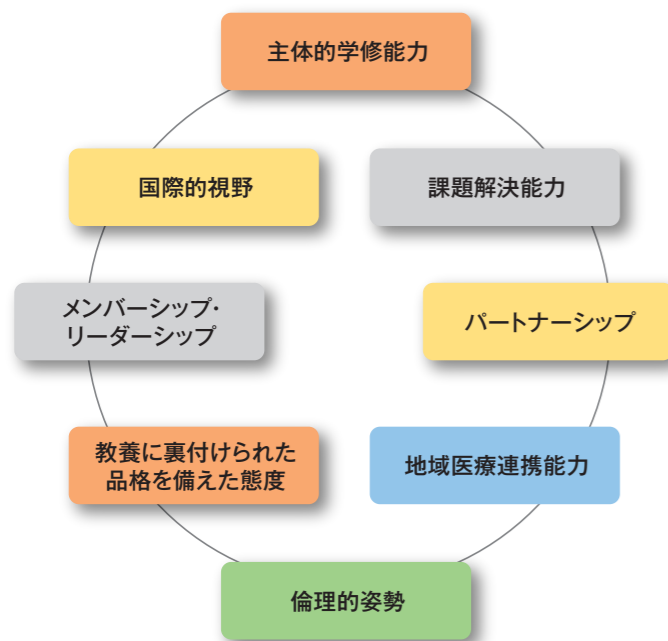
3つめに、地域医療連携能力強化のための地域連携看護学実践研究センター（通称JANPセンター）をフィールドとした教育がある。JANPセンターは、平成30（2018）年、地域住民の健康と生きる力を看護の力で支えることを目指し、国領の地に設立された。地域住民・専門職の方々へのニーズ調査をもとに、みんなの活動、みんなの学び場、みんなの保健室という3部門で活動を展開している。このJANPセンターを教育フィールドとす

ること、そして調布市大学プラットフォームを基盤とした協定校との連携により、地域医療連携能力の育成に努めている。具体的には、協定校であるルーテル学院大学の専門家からの協力を得て、みんなの活動部門と連携し、学生たちが調布市・狛江市におけるボランティア活動を通して学習する機会を設定したり、SOCIETY5.0に対応した教育のため、協定校、電気通信大学の先生方と連携し「人間の生活とICT」という科目を設定している。またJANPセンターのみんなの保健室活動と連動し、4年生の総合実習で学生たちは地域住民を対象とした保健活動に参画している。

国際的視野については、国際交流プログラムの拡充に取り組んでいる。平成28（2016）年にKing's College of Florence Nightingale Faculty of Nursing and Midwiferyと大学間協定を結び、看護学生の交換留学制度が始まった。本学の学生は、学祖が学んだセントトーマス病院で、King'sの学生は本学の附属病院で、臨地実習を行うという実践的なプログラムである。また、令和1（2019）年にはシンガポール国立大学、国立台湾大学の看護学科と協定を結び、選択制で短期交換留学を開始している。

## 看護学科ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針：卒業時に備えておくべき能力）



## DP達成のための様々な仕組み

### D2 課題解決能力 D3 パートナーシップ

#### ⇒シミュレーション教材の開発と教育の強化

2020年度 文部科学省「感染症医療人材養成事業」の採択  
感染防御に関わる看護技術の習得、及び感染症患者疑い患者への看護を理解するためのVRシミュレーション教育



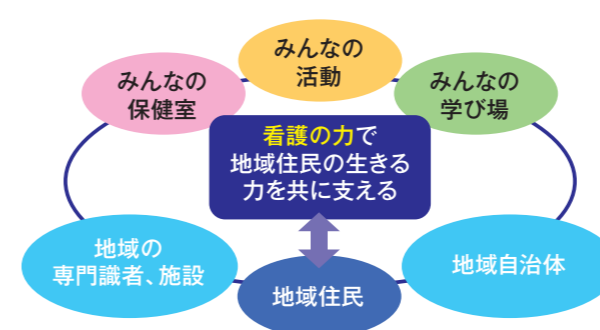
#### 2022年度 メタバース（仮想空間）でのアバターによるコミュニケーション訓練



### D4 地域医療連携能力

#### ⇒地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター）

Jikei Academic Nursing Practice Center for the Communityをフィールドとした教育



※地域住民の健康と生きる力を看護の力で支えること、地域を舞台とし、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とした教育、研究、臨床ケアの統合の場を備えることを目指して2018年度設立。  
調布市大学プラットフォーム「調布市相互友好協力協定締結大学連携」を基盤とした協定校との連携。



### DP8 国際的視野

#### ⇒国際交流プログラムの拡充



英国King's College London (KCL) との選択実習交換プログラム  
2016年3月 英国King's College London (KCL) フローレンス・ナイチンゲール看護・助産・緩和ケア学部 (Florence Nightingale Faculty of Nursing, Midwifery and Palliative Care) と大学間協定に基づき、両校の看護学生の交換留学制度（選択臨地実習）が開始。学祖高木兼寛が学んだセント・トーマス病院での臨地実習。

シンガポール国立大学 (NUS) との学生交流  
2019年2月 シンガポール国立大学看護学部 (NUS, Alice Lee Center for Nursing Studies) との間で締結された大学間協定に基づき、両校の看護学生交換留学制度（看護研修）が開始。

台湾国立大学 (NTU) との学生交流  
2019年10月 国立台湾大学看護学科との間で学生の交換留学（看護研修）に関する大学間協定が締結された。



## 看護学科の現在

### —伝統継承のための取り組み—

伝統継承の取り組みとして第一に挙げるのは、開設以来の、ひとりひとりの個性に応じた丁寧な教育を実践するための少人数教育の継承である。これにより1年生から4年生まで多くの科目でゼミナール形式でのグループディスカッションや学習を実現し、学生たちのDP達成を支援している。

また、看護学科設立時の理念「医師と看護師は車の両輪のごとし」に基いた、医学科の学生と共に学び将来のチーム医療の礎を築く取り組みが挙げられる。多職種協力の力を養う教育は、現在ではIPE (Inter professional education)として、多くの医療系大学で取られるようになってるが、本学看護学科・医学科学生の1年生での共修は開設以来の歴史を持ち、今では4年生での倫理演習、臨床でともに一人の患者さんを受け持ち、患者中心の質の高い医療を提供するために、それぞれの役割と協働のあり方を考察する共修実習へと発展している。

第三の取り組みは、同窓会看護学科支部・大学院看護学専攻と連携した卒業生・在校生への組織的キャリア支援である。看護学科キャリア支援委員は、同窓会看護学科支部と、ホームカミングデーの開催、卒業生対象の「保健師の会」「助産の会」「在宅の会」「小児看護の会」等『専門の会』の開催に取り組んでいる。2018年

には看護学科保護者会が設立され、同窓会看護学科支部と連帯して在校生・卒業生を支援する取り組みも始まっている。西新橋キャンパスに位置づく大学院看護学専攻とは、その物理的距離を超え、在校生が将来大学院進学をキャリアのひとつとして選択できるよう、研究を通して学部学生と大学院生が交流する機会を設けたり、大学院におけるTA制度により、学部教育に大学院生が参画するというような取り組みも始まっている。

以上説明してきたような現在の看護学科の真価を問う機会として、2021年度、第三者機関である日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を受審し、「適合」の認定を得ることができた。



東京慈恵会医科大学医学部看護学科ホームページより  
[http://www.jikei.ac.jp/univ/nurse/pdf/homecomingday\\_6th.pdf](http://www.jikei.ac.jp/univ/nurse/pdf/homecomingday_6th.pdf)

## 看護学科の未来と展望

わが国では、今後さらに進展する少子高齢化を見据え、地域包括ケアシステムの構築が進められており、看護職者の役割、業務の拡大が期待されるようになっていく。また、新興感染症や自然災害などを想定した医療提供体制の整備も進んでおり、保健、医療、福祉の様々な場面での、より柔軟な専門性の高い看護の提供が求められている。さらに本学は4つの附属病院を有し、大学病院として高度かつ複雑な医療、難易度の高い治療や先進的な治療を担う医療機関であり、それらを安全・安心かつ効果的に行いながら、患者中心の医療を実践していく使命がある。そうした社会的ニーズに

応え、自校の使命達成にむけ医療チームの一員として貢献できる看護人材、そして看護学の発展に寄与できる人材を着実に育成するために、第1に附属病院との連携強化を挙げたい。令和3(2021)年度より開始した臨床教員制度を軌道に乗せること、看護学科と臨床との人事交流のシステムを構築すること、4つの附属病院の特色をさらに生かした実習を実現することで、臨地実習の質を高め、学生の看護実践力基盤をより確かなものにしていくことが当面の重要課題である。

第2にJANPセンターを要とした、地域密着型教育の拡大である。地域包括ケア時代の看護学教育は、病院

を飛び出し、生活者としての地域住民の方々とかわることを通した学びを保証していくことが必要不可欠である。JANPセンターで展開される3つの活動をさらに発展させながら、それを教育の現場としていくことを目指したい。

第3に、歴史的つながりを持つ協定校との連携の強化による特色ある教育の展開を挙げたい。京都府立医科大学と東京慈恵会医科大学の間では、古くより運動部の対抗戦、医学教育において交流がある。両校看護学科間でも、平成28年度から教育交流会がはじまっている。学祖高木兼寛先生を要とし、宮崎大学、鹿児島大学と本学は歴史的なつながりを持ち、今では大学間包括協定が結ばれているが、本年度3校による第1回

高木兼寛記念看護教育懇談会が開催された。こうした協定校との連携を強化し、それぞれの大学の看護学教育に資するような展開を目指したい。

第4に、卒業生とのつながりの強化を挙げたい。今後の発展のためには、様々なフィールドで卒業生が輝き、より発展的に活躍できるよう支援することが重要である。そうした先輩の背中を見ることで、在校生は大きな刺激を受けることだろう。その連鎖を生むために、卒業後のキャリアを支援するネットワークを構築し、強化する。看護学科開設30年の節目にキャリアサポートのプラットフォーム「キャリアサポートステーション」を開設した。ここから卒業生のキャリア開発に有益な様々な情報配信を開始していきたい。

## 2022年 看護学科設立30周年



令和4(2022)年10月8日土曜日、新型コロナウイルス感染症に対する感染対策の下、西新橋校舎2号館講堂において、30周年を祝う記念式典・記念講演・祝賀会が開催された。記念講演には本学看護学科の協定校である英国King's CollegeのFlorence Nightingale Faculty of Nursing and Midwifery前校長Ian J.Norman先生をお招きし、「ナイチンゲール看護学校の歴史を概観する:看護学教育の国際化への挑戦」というテーマで講演いただいた。

令和2(2020)年にはじまった新型コロナウイルス感染症は完全な収束には至っていない。しかしワクチン接種が進み、ウイルスの変異に伴う弱毒化によって、状況は鎮静化しつつある。部活動の再開や対面授業の増

加等、学生達の大学生活も回復してきている。感染症拡大で急速に発展したICT教育の環境をいかに活用していくのか、新しい教育方法の開発が求められている。また、さらに伝統を紡いでいくために、今後より多くの卒業生が教員組織のメンバーとして後輩の指導にあたるような体制が望まれる。平成21年(2009)に開設された大学院看護学専攻には、学士課程卒業生の博士前期課程へのストレート入学の門戸も開かれている。平成31年(2019)には博士後期課程も開設し、一連の看護学教育体制が完成した。看護学科における看護基礎教育が、慈恵大学、および広く日本社会の医療・福祉に寄与する優秀な人材をより多く輩出していくことにつながることを期待される。



# 01 Ongoing 教育

## 認定遺伝カウンセラーの育成： 慈恵らしいあらたな 医療専門職の育成にむけて

遺伝診療部  
診療部長・教授  
川目 裕



### はじめに

すべての診療科において我々の遺伝情報を利用した遺伝医療・ゲノム医療が展開されつつある。これらの遺伝情報を利用する医療には、専門的な知識と技術を有する人材である認定遺伝カウンセラーがチームの一員として活躍している。本学において遺伝カウンセラーの育成の準備を進めているので経緯と現状の状況を報告する。

### 1. 遺伝カウンセリングと認定遺伝カウンセラー

遺伝カウンセリングとは、クライアントとその家族の様々な目的に合わせて、相手が理解できるように、かつ心理的社会的な側面を配慮しながら、エビデンスに基づいた遺伝性疾患や遺伝学的検査に関しての正確で最新の医学的情報の提供をおこない、その情報を理解したクライアントの意思決定を援助する「対話」のプロセスである。さらに疾患やその状況に適応を援助するプロセスでもある。

この遺伝カウンセリングの専門的な担い手として、我が国では、臨床遺伝専門医と非医師の認定遺伝カウンセラーが挙げられている(日本医学会：医療における遺伝学的検査・診断のガイドライン、2022改定、2011)。

遺伝カウンセラーという職種は、1971年に、北米にて Sara Lawrence Collegeの大学院修士課程(master program)にて開始されたことに始まる。多様な患者に対応するために、医療系のみならず、生命科学系、人文・社会系と多様なバックグラウンドを有する人を対象に育成を行っている。現在、北米では、約4,500名が認定されている。

それに倣い、我が国の認定遺伝カウンセラーの育成は、2003年に大学院修士課程の開設(北里大学、信州大学)に始まり、2005年、初の認定遺伝カウンセラーが誕生した。その資格は、一般社団法人日本人類遺伝学会と一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会の共同認定資格であり、資格取得のための認定試験を受けるには養成専門課程を設置した大学院の修了が求められる。現在、養成専門課程は、全国25の大学の大学院に設置されている(<http://plaza.umin.ac.jp/~GC/Link.html>) (図1)。

その遺伝カウンセラーの育成の教育は、養成のための到達目標(2022年2月に改訂)に従ってカリキュラムが編成される。遺伝医学に関する講義、演習、そして遺伝カウンセリングの実際の外来に同席する遺伝カウンセリング実習、さらに修士論文(特定の課題研究)が果たされる。この修士課程を修了すると、認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格を取得することができ、筆記と面接(ロールプレイ)に合格すると晴れて認定遺伝カウンセラーの資格を取得できる。

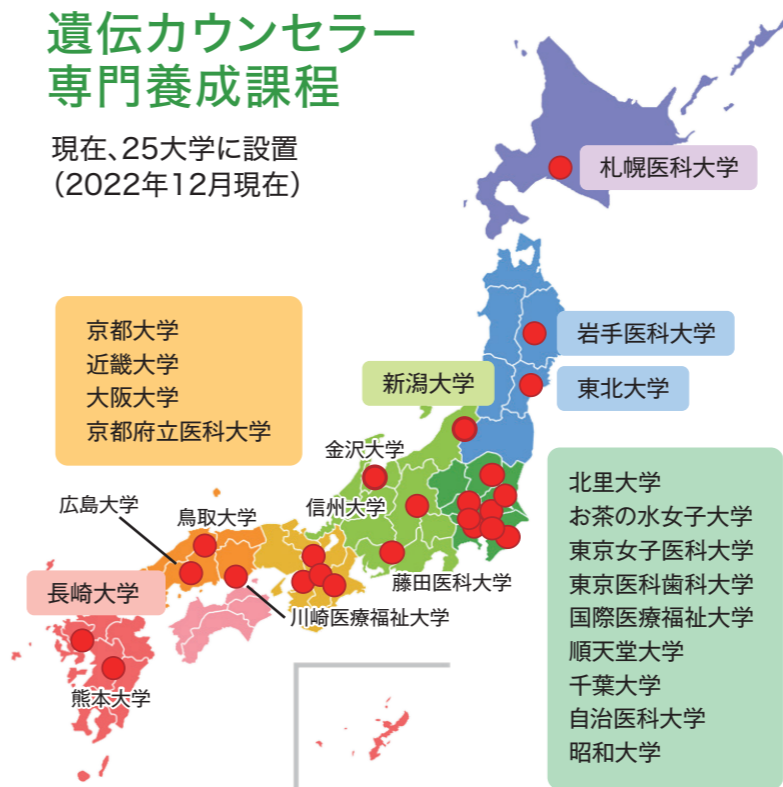
2022年12月現在、356名の認定遺伝カウンセラー<sup>®</sup>が、大学病院、小児専門病院、がん専門病院、不妊クリニック等の医療機関で活躍しているだけでなく、大学等において教育業務を担当している。本学の附属病院では、2名の認定遺伝カウンセラー<sup>®</sup>がチーム医療の一員として常勤職にて診療を中心に、教育、研究に活動している。

### 2. 修士課程の開設準備の開始

東京慈恵会医科大学附属病院においては、2018年、

## 遺伝カウンセラー 専門養成課程

現在、25大学に設置  
(2022年12月現在)



包括的横断的な遺伝診療を担う遺伝診療部が中央診療部門として開設された。遺伝診療と遺伝カウンセリングに専門性のある臨床遺伝専門医・指導医を中心に、各診療科と連携し、横断的に遺伝診療が展開されている。

2021年には、東京都によって総合周産期母子医療センターの認定がなされ、妊婦(妊娠前)から小児までの様々な疾患に対応している。また、従来から総合医科学研究センターを中心に遺伝性疾患の研究が行われ国際的に高い評価を受けている。これら本学の診療、教育と研究体制は、遺伝カウンセラー育成に最適な環境である。

そこで、本学での養成課程の開設の議論が開始され、検討を重ねた結果、2021年12月、本学の大学院医学研究科に新たに医科学専攻修士課程を設置し、本学の建学の精神の基に遺伝カウンセラーの育成を行うことが決定した。

### 3. 教育理念とディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神は「病気を診ずして病人を診よ」である。この思想は本学のミッションであり、診療のみならず教育・研究上の理念でもある。遺伝カウンセリングでは、医学的情報の伝達のみでなく、それを受ける人、その人

## 東京慈恵会医科大学大学院 医学研究科修士課程 医科学専攻遺伝カウンセリングコースのディプロマポリシー

### 養成する具体的な人材像

- ① 遺伝医療と遺伝カウンセリングにおける専門的な知識を有する。
- ② 豊かなコミュニケーション能力を有し、患者中心の医療にたった遺伝カウンセリングを実践できる。
- ③ 遺伝カウンセリングにおける課題を論理的に分析し、その解決に必要な研究を実践できる。
- ④ 国際的な視野にたつて、遺伝カウンセリングに関する最新の情報を知ることができる。
- ⑤ 対人援助職として、様々な状況に対応できるしなやかな心を持ち、多様性を尊重できる。
- ⑥ 遺伝カウンセリングの実践や研究を通じて地域、社会に貢献しようとする使命感を有する。

### ディプロマ・ポリシー(案)

- ① 保健医療に関する情報を多面的に理解し、科学的・論理的に考察することができる。
- ② 遺伝カウンセリングについての歴史、定義、理論、面接技法などの専門的なスキルを身につけ、高度の倫理観と使命感も持って遺伝カウンセリングを実践できる。
- ③ 豊かなコミュニケーション能力を有し、多職種と協働できる。
- ④ 遺伝カウンセリングの現場から研究テーマを自ら見出すことができ、研究指導教員と討論をしながら研究活動を行い、研究成果を論文にまとめて、明瞭に発表することができる。
- ⑤ 国際的な視野に立ち、遺伝カウンセリングに関する文献や情報を得ることができ、国際学会に参加できる。

を取り巻く家族や社会的背景、価値観、ナラティブな側面にも対応する。まさに、遺伝カウンセリングは、建学の精神に合致する。この建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、技術的側面のみならず、多様性を尊重し、全人的な人間性を有した医療人として遺伝カウンセラーを育成することを教育理念として、3つのポリシーを吟味しながら基本計画を策定した。さらに多くの関連する講座の教員が加わり、カリキュラムの策定している。現在、2024年4月に開設に向けて文部科学省、また認定遺伝カウンセラー制度委員会への申請手続きを学事課の協力のもと鋭意、作業中である。養成する人材像とディプロマポリシーについて表に示す。

### おわりに

養成課程開設後は、慈恵医大の建学の精神に添い、社会に期待され、遺伝医学の最新の知識に優れ、かつ人間性溢れる認定遺伝カウンセラーの育成を行ってゆく予定である。これらの人材が全国へ巣立ち、我が国、遺伝医療・ゲノム医療に貢献することを期待している。本学における新たな医療専門職の人材育成にご支援、ご指導をいただきたくお願いする次第である。



総合医科学研究センター  
再生医学研究部  
教授 岡野 James 洋尚



## ヒトiPS細胞由来内耳オルガノイドを用いた薬剤性難聴の治療法開発

—高効率な培養法と、世界初の蝸牛神経節細胞様細胞による薬効評価系を確立—

### はじめに

京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞してから、iPS細胞や再生医療という名前が広く世の中に知られるようになりました。この技術を臨床応用するために多くの研究者が努力し、近年本格的にiPS細胞による再生医療が日本で始まりました。再生医療が注目を集める一方、iPS細胞を利用した新薬の開発にも大きな期待が寄せられています。iPS細胞は血液や皮膚の細胞から作り出せるため、病気の患者さんの細胞からiPS細胞を作り、それを元にいろいろな臓器の細胞を作り出し、病気によって起こる細胞の変化をシャーレの中で観察することができるのです。この「疾患モデル細胞」を使った観察技術を応用することで、「病気によって起こる変化」を「正常な状態」に戻す新しい薬剤を探すことが従来よりも短時間で可能となりました。

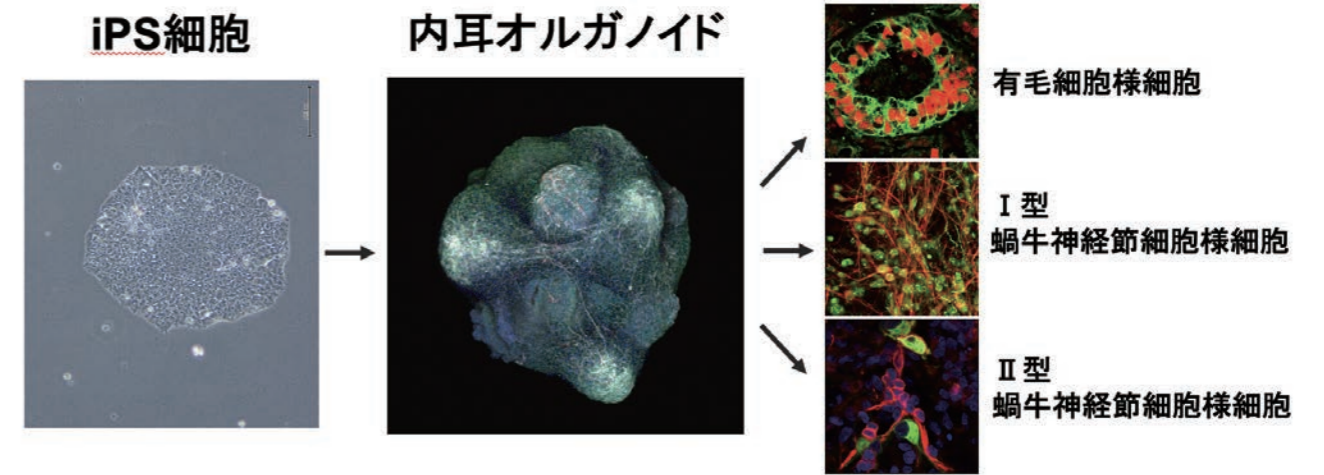
### 新薬開発への応用

病気に効く新薬開発のプロセスは想像以上に長い道のりです。新しい薬は広く使われる前に、病気にどれくらい効くのか、どのような副作用があるのかなどが厳密に調べられます。今までは、まず細胞を使った研究をし、その後動物実験で有効性を確かめ、さらに健康な人に試験的に投与して安全性を確認するなど、長い時間と莫大な開発費がかかっていました。にもかかわらず、それらの試験に合格した新薬でさえ、いざ患者に投与

すると効き目が不十分であったり、予想もしなかった副作用が出てしまい世の中に登場する前に開発中止になることが多くありました。新しい薬を開発するのが難しく遅々として進まなかったのは、薬を患者さんに投与する前に、人の臓器細胞、特に病気の人臓器細胞にどのような影響を及ぼすかを調べられないことが大きな要因でした。しかし現在、薬の開発方法が大きく変わろうとしています。iPS細胞技術により、患者さんの血液や皮膚の細胞から病気の心臓や脳などの臓器細胞をシャーレ内で作り出して、新薬の効果や副作用を直接調べることが可能になりました。これにより、新薬の開発速度が飛躍的に速まると期待されています。再生医学研究部では、臨床講座と共同してiPS細胞から疾患モデル細胞を作り、病態の解析や創薬の研究を行っています(論文1、2)。

### オルガノイド:試験管内の「ミニ臓器」

オルガノイドは様々な細胞を立体的に培養したもので、複雑な構造や細胞間の相互作用を再現できる「ミニ臓器」と呼ばれています。オルガノイドを用いると人体に近い組織で実験することで、再生医療や病態研究、新薬開発の分野での活用が期待されています。再生医学研究部の大学院生だった栗原渉助教(耳鼻咽喉科学講座)は、iPS細胞を利用して薬剤性感音難聴の原因と治療法を開発を行っています。ヒトiPS細胞の分化誘導法を工夫して、内耳の蝸牛を構成する有毛細胞・らせん神経節細胞を含む「内耳オルガノイド」を効率よく作る方法を開発しました(図)。神経科学研究部の加藤総夫教授の協力のもと神経節細胞を詳しく調べたところ、ほとんどの細胞が成熟型の神経細胞の特性を有しており、生体を模倣していることが示されました。



細胞・らせん神経節細胞を含む「内耳オルガノイド」を効率よく作る方法を開発しました(図)。神経科学研究部の加藤総夫教授の協力のもと神経節細胞を詳しく調べたところ、ほとんどの細胞が成熟型の神経細胞の特性を有しており、生体を模倣していることが示されました。

### 内耳オルガノイドを利用した難聴の治療法開発

難聴は世界人口の5%に発生することが知られ、その多くが内耳の障害が原因とされる感音難聴です。内耳にある有毛細胞や神経節細胞には再生能力がないため、いったん難聴になると元に戻ることはなく、根本的な治療法は未だ開発されていません。また近年、難聴は認知症の危険因子のうち、「予防可能だが、最大のリスク」であることが示されており、超高齢化社会を迎える日本では大きな課題とされています。

抗がん剤のシスプラチンは多くのがん治療で使われていますが、副作用として約6割に難聴を引き起こすことが課題となっています。しかし難聴が起こるメカニズムが不明で、薬剤の副作用を抑える研究はあまり進んでいませんでした。そこで我々は内耳オルガノイドを用いてシスプラチン誘導性難聴モデルを作成し、蝸牛細胞に対するシスプラチンの作用を解析しました。シスプラチンをオルガノイドに投与すると、神経線維の断片化など不可逆性の神経細胞障害が起き、細胞死が誘導されることがわかりました。これを踏まえて治療法を模索し、

CDK2阻害剤の1つである「ケンパウロン」を投与したところ、シスプラチンの神経障害作用が緩和されることがわかりました(論文3)。副作用を緩和するメカニズムについては、さらなる考察が必要ですが、シスプラチンによる難聴に対する治療法の開発につながる成果が得られたと考えています。今後さらなる研究を重ね、難聴の病態解析や他の原因による難聴に対する治療法の研究に応用していきたいと考えています。

### 終わりに

iPS細胞技術の登場によって、病気の治療に必要な臓器細胞を患者さん本人の細胞から作りだし移植する医療が実現しつつあります。また、新薬の開発スピードが飛躍的に向上し、不治の病に対する特効薬を生み出せるのではないかと期待が高まっています。しかし一方で、これまでの社会常識では想像もつかなかったような倫理的問題を引き起こす可能性も明らかになってきました。動物の体の中でヒトの臓器を作り医療に役立てることは倫理的に問題ないのか?iPS細胞技術によって作られた卵子や精子を使った生殖医療は社会的に受け入れられるのか?最先端医療技術の発展が引き起こす社会的な影響について、これから幅広く深い議論が必要となっています。

論文1 : Bono K. et al. *Mol Brain*, 2020.

論文2 : Ito M. et al. *J Dermatol Sci*. 2020.

論文3 : Kurihara S. et al. *Stem Cells Transl Med*. 2022.



# 03 Ongoing 診療



内視鏡医学講座  
講座担当教授 炭山 和毅



講師 土橋 昭

## 内視鏡で肥満症を治す ～内視鏡的スリーブ状胃形成術～

### 肥満症に対する減量治療の現状

肥満症とは、体重の超過に加えて肥満に起因または関連する健康障害を合併する病態とされ、本邦においてはbody mass index (BMI) が $25\text{kg}/\text{m}^2$ 以上を肥満と日本肥満学会が定義しています。減量治療の第一選択としては、非侵襲的な食事・運動・行動・薬物療法が行われますが、病的肥満患者さんにおいては、必ずしも減量効果が十分とは言えません。腹腔鏡下胃スリーブ切除術などの減量手術は、内科的保存加療では効果が不十分な高度肥満肥満患者さん(BMI $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上)が適応となり、肥満症が多い欧米を中心に行われています。外科的手術による減量効果は非常に高く、高血圧や糖尿病の改善が得られますが、手術に伴う体のダメージや後遺症のリスク、また、手術を受けると胃や小腸を元の状態に戻すことができないなどのハードルから、手術を躊躇される患者さんも少なくありません。

### 内視鏡的スリーブ状胃切除術 (Endoscopic Sleeve Gastroplasty: ESG)とは

侵襲の高い外科的減量手術の問題点を克服するため、消化器内視鏡(胃カメラ)を用いた様々な低侵襲治療が開発されてきました。しかし、これまでに開発された内視鏡的減量治療の多くは、安全性に問題があり治療効果が不十分とされ、広く普及していません。ESGは、米国Mayo ClinicのChristopher Gostout教授らが開発した比較的新しい低侵襲内視鏡的減量治療です。

口から挿入した内視鏡を用いて、胃を内側から縫い合わせる方法で体の表面に傷をつけません。ESGに用いる内視鏡的縫合器は、胃壁全層に糸をかけることが可能なため、縫縮の耐久性に優れていることが特徴です。また、術後に耐え難い違和感や疼痛があった場合、ESGでは、内視鏡下に縫縮で用いた糸を切開し胃を元の形状に戻すことも可能です。

本学の内視鏡医学講座の研究グループは、ESGで用いられる内視鏡的縫合器(OverStitch™, Apollo Endosurgery社、図1)の開発に携わり、これまでに、Mayo Clinicと内視鏡的縫合器を用いた共同研究を行ってきました。そして、縫合を確実に実施できる経験とMayo Clinicからの万全なサポート体制を得られることとなり、2020年11月に日本国内で初となる「内視鏡的スリーブ状胃形成術」に成功しました(図2)。

### 内視鏡的スリーブ状胃切除術の治療成績

ESGでは、外科的に胃の一部を切除するスリーブ切除術と同様に胃の容積が小さくなるため(図3)、一度の食事摂取できる食物量が制限されます。そして、少量の食事を摂取するだけでも満腹感が得られるようになります。当院でESGを行った肥満症患者さんの体重の変化を図4に示します。ESG直後に急激な体重減少効果を認め、術6か月後も体重減少効果が維持されていることが分かります。この患者さんはESGによって体重が18.5kg減少しました(図4)。

ESGは、既に単施設で1,000例以上の経験が報告さ



図1  
内視鏡的縫合器  
(Apollo Endosurgery社)

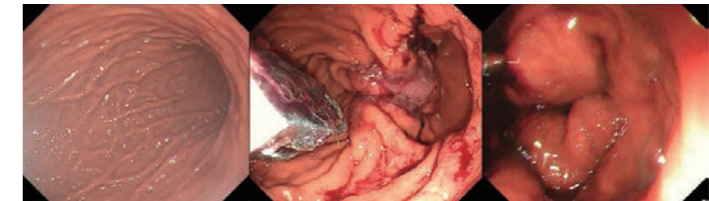


図2 内視鏡的スリーブ状胃形成術における胃内腔の変化

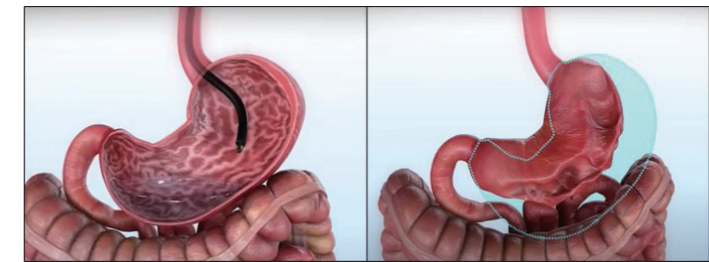


図3 内視鏡的スリーブ状胃形成術による胃容積の変化

れるなど、国際的に確立した低侵襲内視鏡的減量治療として海外では広く認識されています。また、米国で行った研究では、治療5年後の総体重減少率は15.9% ( $100\text{kg}\Rightarrow 84.1\text{kg}$ に相当)であったと報告されており、内視鏡的減量治療で課題であったリバウンドや長期成績の問題もESGでは克服されたことが明らかになっています。更には、多施設前向き無作為試験において、食事・運動・行動療法では体重減少効果を認めなかった肥満症患者さんにおいても、ESGには十分な体重減少効果があることが示されました。手術に伴う重篤な偶発症は稀で、中等度の偶発症発生率も1.3%と少ないことから、減量手術に躊躇する患者さんにも安心して治療を受けていただけたと考えています。

### 本邦における内視鏡的スリーブ状胃形成術の役割

欧米人に比してアジア人は、BMIが低くても糖尿病などのメタボリックシンドロームを発症しやすいことが明らかになっています。実際、米国糖尿病学会の提言では、糖尿病を合併しているアジア人に対する減量手術が必要なBMIの域値を、 $27.5\text{kg}/\text{m}^2$ 以上としています。これまで、肥満症に対する積極的な治療法と言えば、BMIが $35\text{kg}/\text{m}^2$ を超える高度肥満症に対する外科的減量手術を意味していました。しかし、現在、我々が行っている臨床研究によって、軽度の肥満症においてもESGが安全かつ有効であることを示すことができれば、より多くの患者さんに低侵襲治療への介入の機会

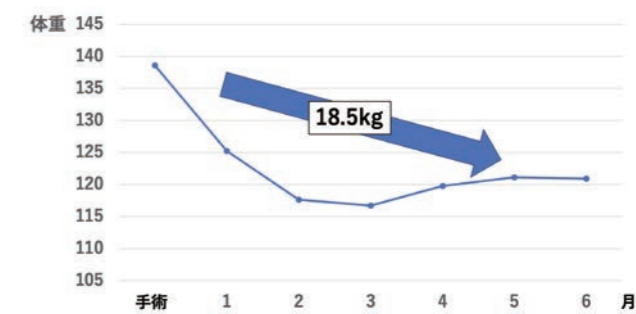


図4 内視鏡スリーブ状胃形成術の体重変化

を提供することができ、ひいては健康寿命の延伸に貢献できるものと期待しています。

### ESGの対象となる患者さん

当講座では、特定臨床研究の下、ESGの安全性と有効性に関する前向き試験を行っており、主に対象となる方は以下の通りです。

1. Body mass index(体重[kg]÷身長[m]÷身長[m])が $30\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の方
2. 糖尿病(境界型を含む)、高血圧症、脂質異常症、肝障害または閉塞性睡眠時無呼吸症候群のうち1つ以上を合併している方
3. 20歳以上60歳未満

本治療法は保険適応ではないため、自己負担額が発生します。万が一、治療に伴う偶発症が起こった場合の費用は、臨床研究保険から払われるため費用負担はありません。詳細については、当講座までお気軽にお尋ねください。



## 東京慈恵会教務主任養成講習会

～看護師養成所の指導的役割を果たす看護教員リーダー育成  
10年間の歩み～

東京慈恵会教務主任養成講習会 企画・運営責任者 興梠 清美



同じ方向に向かって進む仲間とともに感じる達成感!

公益社団法人東京慈恵会は、厚生労働省の認定により、2012年度から「教務主任養成講習会(以下講習会)を開講し、2022年度で11年経過しました。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により休講となりましたが、これまで10回開催しました。165名が修了し、受講生及び関係者からは高い評価を得ています。講習会の概要ならびに10年間の受講生による本講習会評価を通して本講習会の意義を振り返ってみたいと思います。

### 1. 公益社団法人東京慈恵会が講習会を開催するに至った背景

きっかけは、2009年にわが国唯一の看護教員の卒後教育機関であった旧厚生労働省管轄の「幹部教員養成課程」が廃止されたことでした。廃止は看護教員の質の担保に大きく関わると危機感が高まり、全国の看護学校関係者からは、それに代わる教育コース設置を要望する声が多く聞かれました。そこで、厚生労働省は2010年、国以外の機関で新たに看護教員のリーダーを養成できるよう「講習会ガイドライン」を提示しました。当時、社団法人の制度変更が行われ、一般社団法人か公益社団法人を選択する必要が生じました。公益社団法人を選択した東京慈恵会にとって、公益性の高い事業を行う必要が高まったこと、日本で最初の看護師教育を手掛け、これまでに多くの卒業生を輩出している慈恵に周囲の期待が高まったこと、さらに東京都の要望もあって「教務主任養成講習会」を担うことになりました。

### 2. 講習会の目的と対象者および受講料

講習会は、看護師養成所(以下看護学校)における看護教育の充実及び質の向上を図ることを目的に、看護学校の教務主任及びその候補者となる教員に対して、総合的役割を果たすうえで必要な能力開発に向けた教育を行います。受講要件は、看護教員養成講習会受講後、看護教員として5年以上の経験が必要です。10回の講習会受講生の状況は、平均年齢49.2歳、臨床経験11年以上、看護教員13年以上であり、受講生の勤務地は北海道～沖縄と広範囲に渡っていました。講習会期間は5～6か月、受講料は50万円です。期間中は、慈恵看護専門学校6階が講習会専用スペースとして整備されています。

講義・演習は、受講生の経験知を問いながら進むため、常に自らの経験を表現することが問われます。他者への説明や討議を通し、自己や自校の課題の明確化、そこに潜む本質、改善策や解決策の

導き方など、経験知と繋げながら新たな知識や理論の理解を深めています。講習会に対する講師や関係者などの熱意が受講生に伝わり、熱心で貪欲にそして謙虚に学んでいました。

### 3. 受講生の本講習会に対する満足度

受講生による10年間の講習会評価(5段階)の平均は4.76、また「この講習会を受講して満足している」は4.87でした。満足とした理由は①受講したことで新しい知見を得られたこと、②いろいろな場面で自己の不足している点など見つめ直し、自己の変化(成長)を実感できたこと、③モデルとしたい講師との出会いで、改めて学ぶ喜びを知り、看護教育のやりがいと素晴らしさを感じられたこと、④同じような職位にいる看護教育に関わる全国の仲間と出会い、お互い刺激し合い学び協力して講習会を修了できた喜び・達成感そして繋がりなど、クラスメートの存在、の4点に大別できます。

### 4. 修了者の活躍と教務主任講習会の今後

全国に散らばった本講習会の修了者は、自校の改善のみでなく、各地で看護教員講習会の講師を担ったり、グループを組み学習会を立ち上げて学会や誌上発表を行ったりと、本講習会で獲得した能力をさらに発展させており、本講習会の学修成果であると考えます。10年経過し、受講生たちの学びの成果が得られ、全国的に認知度も高まった講習会ではありますが、長期間学校を離れることが難しい教育現場の状況やコロナ禍により授業形態の見直しが余儀なくされています。次年度以降は講習会の内容・方法など検討するため一時休止することになりました。10年間講習会が継続できたのは、学校法人慈恵大学からの多大なるご支援ご協力のお陰であると心より感謝いたします。

創設者高木兼寛の「良い医療には、良い看護教育は欠かせない」という言葉があります。良い看護教育には質の高い教務主任養成校講習会は欠かせません。できるだけ早期に再開できますよう、引き続き関係の皆様のご支援をお願い申し上げます。



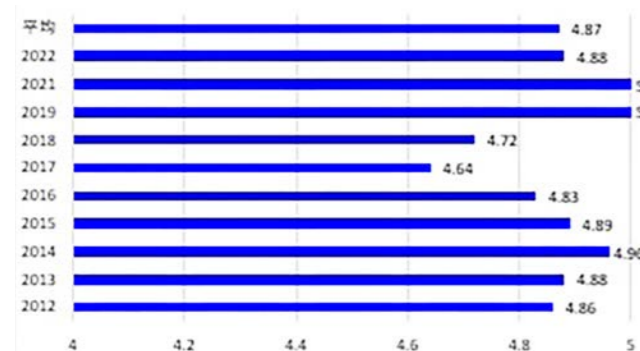
看護経験に基づいた理論形成を踏む



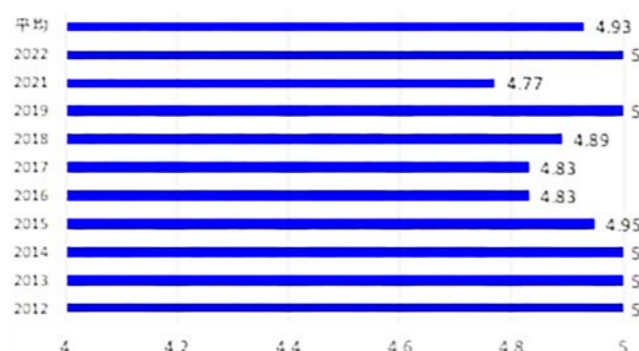
クラスメートとのディスカッション

### ■2012年度～2022年度講習生による教務主任養成講習会の評価平均5段階

教務主任養成講習会を受講して満足している



教務主任養成講習会に対する講師および関係者の熱意が伝わってきた



## PDCから PDCAへ

# 大学の認証評価について



東京慈恵会医科大学  
学長補佐  
学校法人 慈恵大学  
内部質保証推進委員会  
委員長  
柳澤 裕之

## 1. 認証評価と内部質保証

認証評価とは、学校教育法で定める大学の評価制度です。学校教育法第109条では次のように定められています。

**第1項 自己点検・評価の実施とその結果公表の義務**

**第2項 文部科学大臣の認証を受けた機関による評価(認証評価)を受ける義務**

また、学校教育法施行令第40条において、大学等は7年以内ごとの認証評価受審の義務づけが制定されています。

認証評価は、文部科学大臣が認証を与えている機関が行い、大学教育の質を担保するという重要な社会的使命を負います。次の4機関が指定されています。

- ①大学基準協会
- ②大学改革支援・学位授与機構
- ③日本高等教育評価機構
- ④大学教育質保証・評価センター

近年の認証評価のポイントは「内部質保証」と言われています。内部質保証は、大学全体が自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を基に改善・向上に努め、それによって大学の質を自ら保証することです。各大学において、自己点検・評価による改善・向上を促進する仕組みの導入が必須となります。

## 2. 学校法人慈恵大学の内部質保証と認証評価の受審

本学の内部質保証の概要は、本学の理念である建学の精神に基づく大学および大学院の目的・使命を実現していくために、教育、研究、医療、運営・財務の諸活動について、中長期事業計画をもとにPDCAサイクルを機能させ、継続的に質的水準の向上と保証に取り組むことです。それを実現するために、学校法人 慈恵大学全体の内部質保証に関する方針、概念図を制定し、継続的な質的水準の改善と向上を明確にしています。

**【役割】教育、研究の活動：学長を中心とする大学運営会議が統括**

**医療、運営・財務の活動：理事会が統括**

**学校法人 慈恵大学全体の内部質保証：学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が統括**

本学の内部質保証の特徴は、次の通りです。

- ①教育、研究、医療、運営・財務において、学校法人 慈恵大学全体の内部質保証を推進すること。  
特に、医療を含めた学校法人慈恵大学全体の内部質保証を担保する取り組みは、他学では認められない。
- ②単年度事業計画の中間評価による改善事項を次年度計画へ反映すること。
- ③2022-2027年度中長期事業計画の教育における項目を、大学基準協会の評価基準を踏まえた構成に編成し、それをもとにPDCAサイクルを機能させること。

本学は、7年に1回の大学基準協会による認証評価受審を2023年度に予定しており、実地調査は9月～10月に2日間行われることになります。

みな様にご協力いただけますようお願い申し上げます。



# 本学の伝統と文化が息づく、 ドッグセラピー「慈恵犬」の 取り組み



総合医科学研究センター・実験動物研究施設・施設長  
(熱帯医学講座・講座担当教授)

嘉糠 洋陸

毎週木曜日のお昼頃になると、新外来棟の新橋側の出入り口に、3頭の犬がやって来ることをご存知だろうか。「慈恵犬」と名付けられた彼らは、外来患者の方々やそのご家族を出迎え、愛嬌を振りまきながら、人々に癒やしを与えている。撫でられる彼ら自身も嬉しそうである。この「そらまめ」(メス六歳)、「ナッツ」(メス四歳四カ月)、「ボス」(オス六歳六カ月)の3頭は、単なるお客さんではなく、正真正銘の本学の一員として、本学独自のドッグセラピーの中心を担っている。彼らは、建学の精神に沿って患者のために活動する、私達のれっきとした仲間なのである。

ドッグセラピーとは、人々が犬と触れ合うことによって、精神的や情緒的安定、または身体的な運動機能回復効果を得られることを目的とした活動全般を指す。このドッグセラピーは、活動動物介療法と動物介在活動とに分けられる。前者は、医療従事者の主導で実施される、患者の社会・情緒・生理・認知機能を改善する効果を持つ、治療法のひとつである。一方で、後者では、動物とのふれあいを通じて生活の質の向上を目的とする。馬やイルカに比して、犬はセラピーアニマルとしての歴史が古く、小児科や精神科、緩和ケア科等の様々な診療科で受け入れられている。触れ合いの際に、視線を介したオキシトシン分泌促進が人間と犬の双方で起きることが明らかになるなど、科学的な知見も増えている。

近年、日本でもドッグセラピーが注目されるようになり、聖マリアンナ医科大学附属病院や埼玉県立小児医療センターなど、様々な医療機関で導入されるようになった。しかし、その多くが外部のドッグセラピー団体等に依頼している都合上、その回数が限られ、費用も発生する。そのため、治療や臨床研究に必要な、サステナビリティにどうしても欠けるきらいがあった。本学附属病院でも、以前から小児科病棟で日本動物病院協会(JAHA)のドッグセラピーを実施していて、長期入院の患者や付き添いの家族のQOLの向上に役立つ可能性が指摘されていたが、約2ヶ月に一度という回数の少なさがネックになっていた。

大学1号館の地下1-2階部分に、総合医科学研究センターの実験動物研究施設がある。ここでは、マウスやラット、ブタなど様々な実験動物が飼育されていて、職員10名・専任教員3名(うち獣医師2名)により、365日休みなく稼働している。この施設には、大変立派な犬舎がある。十分な大きさの犬用ケージが専用飼育室に設置されていて、15頭を同時に飼育できる。

しかし、動物愛護の考えの浸透から、本学では犬を使用した動物実験はもう長いこと行われていない。であれば、本学のヒト・モノを有効に活用することも併せて、ドッグセラピーのための犬を独自に飼育できるのではないかと。私が施設長になって、犬舎を眺めながらそう思い立ったのが、「慈恵犬」の端緒である。

本学と犬の関わりは大変古く、実は学祖・高木兼寛にまで遡る。1884年の練習艦「筑波」の航海による、脚気栄養説の臨床研究の真っ最中に、学祖高木は犬を使った脚気モデルの作出に取り組んだ。犬と人間が同じ原因で同じ病気を発症するという概念がない時代に、「世界初の栄養疾患モデル」に挑戦した学祖の慧眼に恐れ入る。実験は、脚気食群3頭、健康食群3頭の組み合わせでおこなわれたが、それらの犬の世話から観察、そして死後の解剖に至るまで、海軍所属の軍医教官5名に“誠心誠意”で当たらせたと記録がある(犬と寝食を共にするレベルだったらしい)1)。実験に参加する犬に対する、学祖の慈愛が垣間見える。

森田療法でも、犬が大きな役割を果たしている。森田療法は、本学の精神医学講座初代教授の森田正馬によって生み出された、神経症に対する精神療法である。治療の後半では、患者は作業療法のフェーズに入り、動物の世話、園芸、陶芸、料理など様々なことに取り組む。1920年に、森田宅に患者が下宿する形で森田療法が開始され、この時に犬の飼育が始まったとされる。第三病院にある森田療法センターでは、今でも犬が常時飼育されていて、犬の埋葬までもが患者の療法の一環となっている2)。森田療法では、犬はあくまで患者による作業の対象ではあるが、患者の治療への貢献という側面で見れば、100年以上続く日本最古のドッグセラピーと言えるだろう。

2015年、実験動物研究施設においてドッグセラピーの構想を立ち上げた。本学で飼育する犬の候補として、ペットショップ等で犬を購入することは鼻から念頭に無く、保護犬を対象にすることにした。当初は都に相談したが、法人へ保護犬を譲渡した実績はない、とけんもほろろ。時間を掛けて各自自治体をあたったところ、人づてで行き着いた福島県郡山市保健所がこちらの趣旨に大いに賛同し、保護犬を譲渡してくれることになった。果たして2017年、私の自家用車で福島まで迎えに行き、一匹の子犬を譲り受けた。随分と怖かったのか、その子は車の座席の下に潜り込んでしまったことをよく覚えている。それが今の「そらまめ」である。その後「ボス」が、次いで「ナッツ」が郡山市から譲渡された。



新外来棟前での患者とその家族のお出迎え風景。小島博己附属病院院長(左)がそらまめを、らんぶの会のハンドラーの方がボスをエスコートしている。



熱帯医学講座でくつろぐ、3頭の慈恵犬。前からボス、ナッツ、そらまめ。

ドッグセラピーに必要な犬の資質は巷ではいろいろと言われているが、本学の場合は「人を噛まなければよい」をボトムラインとした。世の飼い犬は、特殊なトレーニングを受けずとも人と共存しているからである。この3頭はその後、実験動物研究施設の職員らに丁寧に飼育・馴致され、順調に成長した。保護犬の譲渡条件のひとつは、最後まで面倒を見ることである。彼らの終の棲家は、本学なのだ。施設職員と一緒に朝晩に散歩する姿は、西新橋付近の人々にちょっと知られた存在となった。2019年、人前に出せるだけ十分に成熟したと判断し、病院運営会議を経て、法人運営会議にてドッグセラピーの実施が承認された。「慈恵犬」の正式な誕生である。

ドッグセラピーでは、病棟等での犬と患者の触れ合いが中心になる。そのため、犬のハンドラーの存在が必須である。飼育を担当している実験動物研究施設の職員らは、通常業務があるため、セラピーでのハンドラーを務めることまでは適わないことが当初より課題であった。その話を聞いて立ち上がったのが、公益社団法人東京慈恵会に所属する、教授令夫人の有志の方々だった。慈恵犬のためのボランティア団体「らんぶの会」(代表:井田尚子さん)を設立し、ハンドラーとしてトレーニング役を買って出ただけでなく、慈恵犬のアピールの活動も精力的に展開している。設立から3年にわたり、週一回の活動を欠かさず実施し、今や3頭の“お母さん”役として欠かせない存在である。小児科病棟とウェブでつながりリモートセラピー、そして冒頭の新外来棟でのお出迎えは、らんぶの会が企画・立案

## 参考文献

- 1) 松田 誠「高木兼寛の犬脚気の研究とこれに協力した海軍軍医たち—世界最初の疾患モデルの研究—」東京慈恵会医科大学雑誌 112(2): 301-311 (1997)
- 2) 矢野勝治「森田療法における動物飼育の意義」精神経誌 112(6): 581-584 (2010)



実験動物研究施設の職員。朝夕の散歩、食餌、シャンプー、体調管理、犬舎の清掃など、365日体制で3頭の世話をしている。



らんぶの会の皆さん。毎週木曜日に、3頭のトレーニング、散歩、リモートセラピー、新外来棟でのお出迎え、各種グッズ作成など、精力的に活動をおこなっている。オレンジ色のエプロンが目印。

して実現したものである。

東京慈恵会の正会員は女性のみで、慣例として本学の教授令夫人もしくは女性教授である。その由来は、明治時代に皇族や貴族の夫人で構成された「婦人慈善会」にまで遡る。婦人が中心となり、鹿鳴館で日本初のバザーを行い、その収益金を学祖高木兼寛が設立した有志共立東京病院に寄付した。その後、婦人慈善会は発展的に解散し昭憲皇太后から賜った「慈恵」の言葉を冠した東京慈恵医院に深く関与することになる。日本で初めての婦人による社会慈善活動をおこなった、その精神の一端が、百数十年後に「らんぶの会」へと姿を変えて、綿々と続いていることに感嘆の念を禁じえない。

2022年に始まった、新外来棟での彼ら3頭によるお出迎えは、またたく間に患者とその家族、そして本学教職員に知られるところとなった。それどころか、多くの慈恵犬ファンが生まれ、わざわざ時間を合わせて会いに来てくれる人まで現れるようになった(栗原敏理事長もそのお一人である)。彼ら3頭自身も、これを週一回の“お務め”として認識している様子すら伺える。多くの本学関係者の協力で生み出された、本学独自のドッグセラピー「慈恵犬」は、ピースがひとつでも欠ければ成り立たなかった。構想から足掛け7年、コロナ禍が終われば、当初の目的のひとつである病棟でのドッグセラピーがいよいよ始まる。颯爽と歩く彼ら3頭を見かけた時、慈恵の仲間として声を掛けてもらえたら幸甚である。



# The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2022年6月～2022年12月

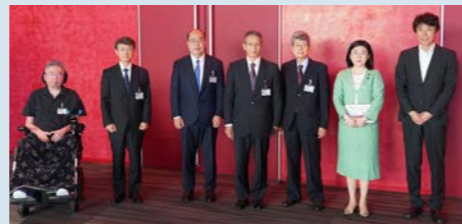
6月

## 牧島かれんデジタル大臣(当時)が 病院のデジタル化について視察に 来られました。

2022年6月28日(火)、牧島かれんデジタル大臣(当時)、デジタル庁の犬童制作審議官が病院のデジタル化について視察に来られ、栗原理事長、松藤学長、小島院長、川井教授、高尾准教授で対応しました。

当日は、病院フリーWi-Fi・スマホの待合システム・スマホのお会計システム・マイナンバーカードを使った本人確認・慈恵で開発された遠隔医療システム(Join)・パーソナルヘルスレコードアプリ(MySOS)・デジタル勤怠管理アプリ(JikeiHere)を見学し体験していただき、その後意見交換をしました。

今回の視察は、デジタル庁として病院のデジタル化に向けての取組を検討されるためとのことで、病院側からは診療行為に直結しないと医療費として徴収できないなど、医療現場でデジタルの活用を進めづらい要因として感じることをお話ししました。病院のデジタル化やそのための仕組みのあり方について意見交換し、今後も協力して進めていくことを確認しました。



## 港区長からの表彰 (港区の新型コロナウイルスワクチン接種への貢献)

港区庁舎内で武井雅昭区長より栗原理事長へ、区内の高齢者及び小児、更には医療従事者への新型コロナウイルスワクチン接種に対する本学への感謝状の贈呈が2022年6月29日に行われた。

全国で接種開始された2021年当初から附属病院は、ワクチン接種WGを窓口には救急部、薬剤部、看護部の協力でワクチン調製方法や現場運用方法を港区へ供与し、更に旧外来棟1階を提供し区内のワクチン接種事業の積極的に参画した。副反応急変時の救急部の対応、小児接種に際しの小児科医局員の連日の派遣には特別な謝意があった。理事長から地元港区へ大学としての地域貢献の継続について発言があり、区内唯一の医学部として、地元自治体への協力の新たな試金石となった。

写真左から 石川教授、武井港区長、栗原理事長、小島院長



6月

## 2022年度 中高大連携(芝・豊島岡との連携協定締結)・ 芝高校との「芝漬けゼミ」開講

7月

2022年7月6日に豊島岡女子学園中学校・高等学校、2022年7月8日に芝中学校 芝高等学校と中高大連携に関する調印式を執り行いました。本連携は、医学や医療など生命科学教育に関わる交流・連携を通じて、中学生・高校生の視野を広げるとともに、多様化する生徒の能力を伸ばし、中学校・高等学校・大学教育に関する相互の理解を深め、双方の教育の活性化を図ることも目的としております。また、7月20日(薬理学講座・川村准教授)・21日(救急医学講座・武田教授)に芝高等学校の「芝漬けゼミ」が本学にて開校され、両日合わせて18名の高校生に参加いただきました。



8月

## 2022年度 高校生を対象とした医療体験実習について

2022年8月21日から26日の6日間、NPO法人Touch the Futureと共催で「高校生の先端医療体験実習」が腎臓・高血圧内科 横尾教授・松尾講師協力のもと行われました。本実習では、ICUや手術見学に加え、研究室見学・救急体験など様々な体験を実施しました。医師以外にもコメディカルや患者さんと直接対話をする機会があり、参加した高校生からは「様々な経験をさせていただき、非医療従事者の今だから分かることや感じるものがたくさんあり、この学びと気持ちを大事にして将来に活かしたい」「医師に対するイメージが変わった。医師は1日中患者さんのために行動していることが分かりました」との意見をいただきました。



写真提供元  
NPO法人  
Touch the Future



9月

## 第3回高木兼寛記念シンポジウム 鹿児島大学、宮崎大学、 本学合同にて、オンライン形式で開催

医学部看護学科 看護学専攻 教授 佐藤正美

2022年9月9日に鹿児島大学、宮崎大学との包括協定に基づく学術交流の一環として、第3回高木兼寛記念シンポジウムが、昨年の第2回に引き続きオンライン形式により開催されました。

シンポジウムは、まずセッション1として各々の大学院での《看護学高度実践教育の取り組みの紹介》が発表されました。私は、2013年から毎年開催している4大学院(慈恵医大、昭和大学、星薬科大学、上智大学)による「がんチーム医療に貢献する多職種連携教育」について発表しました。その他、がん看護専門看護師教育課程の基準やその具体的内容(宮崎大学・木下由美子教授)、多くの離島がある鹿児島で取り組む先駆的な高度実践教育について(鹿児島大学・西尾育子教授)、紹介がありました。他大学院のシラバスは拝見できますが、シラバスに込める願いや意図、またその教育課程を実現するまでのプロセスや苦労などを知る機会はありません。貴重なお話を伺うことができました。

次にセッション2はバラエティに富んだ《医学科基礎系・臨床系の研究紹介》でした。基礎系からは、アレルギー疾患のゲノム解析(慈恵医大・玉利真由美教授)や寄生虫のゲノム解読(宮崎大学・丸山治彦教授)、そして自然免疫活性化と制御(鹿児島大学・原博満教授)の発表でした。このシンポジウムに参加しなければ知り得なかった、研究者のロマンあふれる探究の物語と成果を拝聴した時間でした。臨床系では、加齢性肺疾患(慈恵医大・桑野和善教授)、循環器疾患(宮崎大学・海北幸一教授)、泌尿器癌(鹿児島大学・榎田秀樹教授)と様々

な診療科における最先端の治療について、わかりやすい資料をもとに理解を深めることができた発表でした。また、同日にサテライト企画として、第1回高木兼寛記念看護教育懇談会もオンラインで開催され、交流を深めることができました。今回、様々な教育・研究の講演を拝聴することができ、ご発表された研究者の皆様からエネルギーをいただいたシンポジウムでした。本シンポジウムの企画及び開催にご尽力くださいました3大学の関係者の皆様に、深謝申し上げます。

2022. 9/9 金 13:00~  
オンライン開催 (Zoomウェビナー)

第3回  
高木兼寛記念シンポジウム

◎シンポジウム (実行: 鹿児島大学・医学部副学部長 高尾 雅彦 教授)

1. 開会の言葉 横口 剛人 教授 鹿児島大学・医学部長

2. 挨拶 鹿児島大学 佐野 賢 学長  
東京慈恵会医科大学 松藤 千弥 学長  
宮崎大学 梶島 浩 学長

3. 講演

◎セッション1 看護学高度実践教育の取り組みの紹介 (13:20~14:35)

鹿児島大学 看護学専攻 看護学専攻 教授 佐藤 正美  
「4大学院の連携によるがんチーム医療に貢献する多職種連携教育」

宮崎大学 医学部看護学科 総合臨床看護学講座 木下 由美子 教授  
「がん看護専門看護師教育課程の取り組みについて」

鹿児島大学 医学部保健学科 看護学専攻 看護学講座 西尾 育子 教授  
「高度実践教育に向けた看護学における取り組みの紹介」

(休憩 14:35~14:50)

◎セッション2 医学科基礎系・臨床系の研究紹介 (14:50~17:20)

鹿児島大学 医学部基礎系 臨床系の研究紹介 北 美子 教授  
宮崎大学 医学部副学部長 (研究紹介) 野間口 千金 教授  
鹿児島大学 大学院医学総合研究科 研究科長 八代 利香 教授

基礎系:

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 分子遺伝学研究室 玉利 真由美 教授  
「アレルギー疾患のゲノム解析」

宮崎大学 医学部医学系 感染症学講座 寄生虫学分野 丸山 治彦 教授  
「芽殖菌類: 発見からゲノム解読までの物語」

鹿児島大学 大学院医学総合研究科 免疫学分野 榎 博満 教授  
「抗腫瘍による自然免疫活性化と制御」

臨床系:

東京慈恵会医科大学 医学部医学科 内科学(呼吸器内科)講座 桑野 和善 教授  
「老化を抑制とする加齢性肺疾患の治療」

宮崎大学 医学部医学科 内科学講座 循環器・腎臓内科学分野 海北 幸一 教授  
「糖尿病発症における抗血糖薬モニタリングシステムの検証」

鹿児島大学 大学院医学総合研究科 泌尿科学分野 榎田 秀樹 教授  
「泌尿器癌におけるマイクロRNAワールド」

4. 閉会の言葉 (17:20~)

井戸 章雄 教授 鹿児島大学・大学院医学総合研究科長

◎サテライト企画 第1回 高木兼寛記念看護教育懇談会 (10:00~11:30)

東京慈恵会医科大学 宮崎大学 鹿児島大学

本シンポジウムは、包括協定に基づき学術交流の一環として開催いたします。  
(企画担当) 玉利 真由美 教授 (東京慈恵会医科大学) 丸山 治彦 教授 (宮崎大学) 井上 博隆 教授 (鹿児島大学)

10月

## 第139回 成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」及び 「成医会学生ポスター発表賞」の受賞について

「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」は、ポスター発表のさらなる発展と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より各3篇を選び、授与されるものです。

第139回成医会総会においては、一般演題(示説発表)に38応募があり、次の6篇(「成医会優秀ポスター発表賞」「成医会学生ポスター発表賞」各3篇)が選出され10月7日(金)、松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与されました。

### 【成医会優秀ポスター発表賞】(3篇)

#### 受賞演題1 「悪性高熱症モデルマウスの骨格筋細胞におけるCa<sup>2+</sup>動態」

坪井義高<sup>1,2</sup>、大山廣太郎<sup>3,4</sup>、小比類巻生<sup>4</sup>、村山尚<sup>5</sup>、呉林なごみ<sup>5</sup>、立花利公<sup>2</sup>、馬日佳信<sup>2</sup>、菊地恵美<sup>2</sup>、野口悟<sup>6</sup>、井上高良<sup>6</sup>、井上由紀子<sup>6</sup>、西野一三<sup>6</sup>、森修一<sup>7</sup>、石田良典<sup>7</sup>、影近弘之<sup>7</sup>、鈴木団<sup>8</sup>、福田紀男<sup>4</sup>、山澤徳志子<sup>2</sup> 殿

(1. 医学科5年 2. 総合医科学研究センター 基盤研究施設 3. 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 4. 細胞生理学講座 5. 順天堂大学 細胞・分子薬理学講座 6. 国立精神・神経医療センター 神経研究所 7. 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 8. 大阪大学 蛋白質研究所)

#### 受賞演題2 「CMV潜伏感染関連タンパク質ORF152は先天性CMV感染症において神経病原性を誘導する」

嶋田和也、小林伸行、岡直美、石井梓、近藤一博 殿 (ウイルス学講座)

#### 受賞演題3 「シングルセルRNA-seq解析により明らかになったCOPD病態における上皮細胞の変容と異常免疫応答」

渡邊直昭<sup>1,2</sup>、藤田雄<sup>1</sup>、中山淳<sup>2</sup>、門田幸<sup>1</sup>、林祐介<sup>2</sup>、大塚崇<sup>3</sup>、荒屋潤<sup>1</sup>、山本雄介<sup>2</sup>、桑野和善<sup>1</sup> 殿  
(1. 呼吸器内科 2. 国立がん研究センター研究所 病態情報学ユニット 3. 呼吸器外科)

### 【成医会学生ポスター発表賞】(3篇)

#### 受賞演題1 「コロナ禍で影響を受けた死因-エコロジカル研究」

田中英美理<sup>1,2</sup>、浦島充佳<sup>2</sup> 殿 (1. 医学科4 2. 総合医科学研究センター 分子疫学研究部)

#### 受賞演題2 「気候変動が心血管死亡に与える影響についての系統的文献レビュー」

牟田窓夏<sup>1,2</sup>、宮坂政紀<sup>2</sup>、永森収志<sup>2</sup>、越智小枝<sup>2</sup> 殿 (1. 医学科4年 2. 臨床検査医学講座)

#### 受賞演題3 「レスベラトロールの母体投与はラット胎仔動脈管収縮を誘発する」

向後雅史<sup>1</sup>、井上天宏<sup>2</sup>、赤池徹<sup>2</sup>、南沢享<sup>2</sup> 殿 (1. 医学科5年 2. 細胞生理学講座)





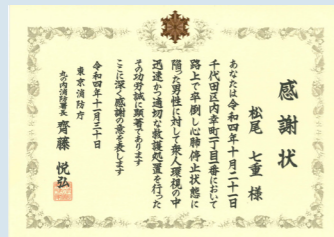
11月

## 松尾七重医師へ丸の内消防署長から感謝状が贈呈されました

～路上で心肺停止状態の男性救護～

10月21日、松尾七重医師(附属病院腎臓・高血圧内科 診療医長)は、千代田区内幸町の路上で卒倒し、心肺停止状態であった男性に対して適切な救護処置を行いました。

本行為に対し、11月30日に丸の内消防署にてセレモニーが行われ、齊藤悦弘丸の内消防署長から感謝状が贈呈されました。



## 大学初のデジタル庁「デジタル推進委員」への任命について

2022年11月30日、デジタル庁の河野太郎大臣より、本学松藤学長をはじめ7名(表1)が「デジタル推進委員」に任命されました。デジタル推進委員とは、デジタル機器・サービスに不慣れな方等に対し、講習会等でデジタル機器・サービスの利用方法を教えたり、利活用をサポートする取り組みを行う方です。なお大学としてとりまとめ応募し、デジタル推進委員に任命されるのは全国初の事例となります。

慈恵医大ではこの取り組みを広げ、「アクセシビリティ」の考え方にに基づき、障がい者や困っている人(高齢者など)にもデジタル機器・サービスの使い方を習得してもらう体制作りをしていきます。取り組みを通じ、政府やデジタル庁が掲げる『誰ひとり取り残されない世界』の実現に貢献します。

東京慈恵会医科大学	学長	松藤千弥
リハビリテーション講座	主任教授	安保雅博
	助教	鈴木 慎
先端医療情報技術研部	准教授	高尾洋之
	講師	竹下康平
	訪問研究員	高橋宜盟
	訪問研究員	信朝裕行

(表1)

デジタル推進委員のHP  
[https://www.digital.go.jp/policies/digital\\_promotion\\_staff/](https://www.digital.go.jp/policies/digital_promotion_staff/)

デジタル推進委員の取り組みに協力している  
 団体紹介HP(東京慈恵会医科大学掲載)  
[https://www.digital.go.jp/policies/digital\\_promotion\\_staff/cooperation/](https://www.digital.go.jp/policies/digital_promotion_staff/cooperation/)



11月

12月

## 第1回 みなと地域感染制御協議会全体会議が開催されました

12月1日、第1回みなと地域感染制御協議会全体会議が大学1号館講堂で開催されました。

本会議は「東京都新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関(感染対策向上加算1に該当)」である当院を含む港区内の6病院が中心となり、港区医師会、港区やみなと保健所とも連携しながら、区内の12の入院医療機関、約60の診療所で連携体制を組み、合同カンファレンスや医療訓練などを実施するものです。(一部区外連携医療機関も参加) 本学からは感染対策部の中澤部長、美島副部長が参加いたしました。当日は新興感染症発生時のシミュレーション訓練も行われました。このような区全体での感染対策の連携は都内でも少なく、注目されています。



12月

## 令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰

医学教育等関係業務功労者として第三病院 菅嶋浩一さん表彰される

令和4年度医学教育等関係業務功労者の表彰式が、2022年12月21日文部科学省3階講堂で行われました。

本学からは第三病院管理課 菅嶋浩一さん(営繕員)が文部科学大臣から表彰されました。

菅嶋さんは28年以上にわたり環境整備等の補助的業務に関し、顕著な功績があったとして表彰されました。





## 2023年 主な行事予定表

1月4日(水)	新年挨拶交歓会
1月21日(土)	国領校最終講義(午後3時から看護学科・大講堂) 大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)
1月31日(火)	医学科教授退任記念講義(午後3時から大学1号館講堂)
2月4日(土)	第117回医師国家試験(2日間)
2月5日(日)	第117回医師国家試験(2日間) 看護学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 国領キャンパス)
2月6日(月)	第1268回成医会例会(午後6時から2号館講堂)
2月7日(火)	看護学科教授会議(臨時)(一次試験)(午前11時) 看護学科入学試験合格発表(一次試験)(午後1時)
2月8日(水)	看護学科入学試験(二次試験)(面接:国領校医学科校舎) 大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)合格発表(午後5時30分)
2月9日(木)	医学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 五反田TOCビル・西新橋キャンパス)
2月10日(金)	第109回保健師国家試験
2月11日(土・祝)	看護学科入学試験合格発表(二次試験)(午後1時)
2月12日(日)	第112回看護師国家試験
2月16日(木)	医学科入学試験合格発表(一次試験)(午後3時)
2月19日(日)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月20日(月)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月21日(火)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月28日(火)	医学科入学試験合格発表(二次試験)(午後3時)
3月4日(土)	第98回医学科卒業式・第28回看護学科卒業式(午後1時30分より2号館講堂)※謝恩会は中止
3月16日(木)	第117回医師国家試験合格発表(午後2時)
3月24日(金)	第109回保健師・第112回看護師国家試験合格発表(午後2時)
3月25日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程)修了式
4月3日(月)	令和5年度大学院入学式(午後1時から大学1号館講堂)
4月6日(木)	令和5年度医学科・看護学科入学式(午後2時から2号館講堂)
4月7日(金)	1年生 医学科・看護学科オリエンテーション(午前9時から看護学科1階大講堂)
4月11日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
4月21日(金)	医学科新入生歓迎会(午後6時30分 東京プリンスホテル)
4月24日(月)	看護学科新入生歓迎会(午後7時 京王プラザホテル)
4月29日(土・祝)	京都府立医科大学定期戦(京都開催予定)
5月1日(月)	創立記念日
6月3日(土)	医学科保護者会春期総会(午後3時から看護学科1階大講堂)
6月10日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂)
7月11日(火)	大学院医学研究科(看護学専攻博士後期課程・博士前期課程)大学院説明会
8月6日(日)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月9日(水)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月10日(木)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月20日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
9月2日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士後期課程)入学試験
9月9日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程)入学試験
9月21日(木)	大学院医学研究科(看護学専攻博士後期課程・博士前期課程)合格発表(午後1時) 慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム 大学1号館講堂
10月7日(土)	同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から大学1号館講堂)
10月12日(木)	第140回成医会総会(2日間)
10月13日(金)	第140回成医会総会(2日間)
10月28日(土)	第119回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
10月29日(日)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
11月11日(土)	学祖墓参(午後2時30分 2号館前集合)
11月18日(土)	医学科保護者会秋期総会(午後3時45分から大学1号館講堂・2号館講堂)
12月27日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時からホテルオークラ)

2022年7月から2022年11月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

## 大学公報

## 行事

- 全国戦没者に対し、追悼の意を表する為、次の事を実施しました。
  1. 令和4年8月15日(月)
  2. 半旗を掲揚する
  3. 正午を期して黙とう 1分間
- 10月28日(金)午後1時より、芝増上寺に於いて第118回解剖諸霊位供養法会が行われた。
- 11月12日(土)、理事長、学長をはじめ大学幹部教員、学生会代表、看護専門学校代表により学祖高木兼寛先生の墓参が行われた。

## 公示

- 2022年4月1日  
颯川 晋氏に、産学連携教授を命ずる
- 2022年7月1日  
仲泊 聡氏に、客員教授を委嘱する  
赤池 徹氏に、准教授を命ずる  
松永 佳子氏に、看護学科教授を命ずる  
下村 達也氏に、附属第三病院泌尿器科診療部長を命ずる  
志村 英二氏に、附属第三病院耳鼻咽喉・頭頸部外科診療部長を命ずる  
宮坂 政紀氏に、葛飾医療センター中央検査部診療部長代行を命ずる
- 2022年8月1日  
岡本 隆嗣氏に、客員教授を委嘱する  
赤崎 安晴准教授に、教授を命ずる  
古谷 伸之准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 2022年8月1日～2024年3月31日)  
入江 是明講師に、准教授を命ずる
- 2022年9月1日  
炭山 和毅氏に、附属柏病院内視鏡部診療部長(兼任)を命ずる
- 2022年9月27日  
懲戒処分者 医学科教授  
処分日 2022年9月22日  
処分の種類 減給  
就業規則第102条第5項に該当  
事案の概要  
本学の令和4年度医学科入学試験(一次試験)において、学外にて使用した問題と酷似した問題を入試問題として出題し、入試における公平性と秘匿性の担保を損う事態を招き、結果として本学の信用を傷つけた。
- 2022年10月1日  
加塩 大吾氏(八等級)に、大学研究推進課課長補佐を命ずる  
10月8日(土)は、本学創立者 高木兼寛先生の記念日につき休診とする  
年末年始は令和4年12月29日(木)より令和5年1月3日(火)まで休診とする
- 2022年11月1日  
原 弘道准教授に、教授を命ずる  
山口 敏行准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 2022年11月1日～2025年3月31日)  
伊室 貴助教に、准教授を命ずる

## 学事

- 大学院修了者  
2022.6.22 会澤 大介  
2022.7.13 河合 裕成 矢島 愛美  
2022.9.14 横山 正明 松下 嵩之  
高田 直樹 武井 淳  
2022.11.9 古橋 広人 大橋 謙之亮
- 学位論文通過者  
2022.6.8 遠藤 大輔  
2022.6.22 辰濃 尚 井坂 奈央 榎本 浩也  
2022.7.13 澁谷 尚希 秋山 昇士  
2022.7.27 畑 太悟 佐藤 琢磨 櫻井 俊之  
2022.9.14 稲垣 直哉  
2022.9.28 西谷 友樹雄 野沢 陽介  
大瀧 雄一郎  
2022.10.26 竹下 康平  
2022.11.9 太田 真由美



## 大学公報

## 訃報

- ▶多田 信平客員教授(放射線医学講座)は、6月9日逝去されました。
- ▶石本 二見男客員教授(大学直属)は、9月3日逝去されました。
- ▶新井 達太客員教授(大学直属)は、9月15日逝去されました。
- ▶鳥飼 こずえ助教(眼科学講座)は、9月15日逝去されました。

## 東京慈恵会公報

## ● 行 事

- 2022年 6月7日(火) 公益社団法人東京慈恵会 理事会・評議員会・定時総会を書面会議にて開催した。
- 2022年11月8日(火) 公益社団法人 東京慈恵会 理事会を開催した。

## ● 報 告

- 2022年度 教務主任養成講習会 開講式を5月28日(土)に挙行政した。

## 補助金・助成金

## ● 2022年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧

種 目	新規申請 件数	採択件数		
		新規採択件数	継続採択件数	採択件数合計
新学術領域研究(研究領域提案型)	2	1	0	1
学術変革領域研究(A)	1	0	1	1
学術変革領域研究(B)	3	1	0	1
基盤研究(A)	0	0	0	0
基盤研究(B)	20	11	14	25
基盤研究(C)(独立基盤形成を含む)	162	50	86	136
挑戦的研究(萌芽)	26	4	3	7
挑戦的研究(開拓)	0	0	0	0
若手研究(独立基盤形成を含む)	58	29	61	90
研究活動スタート支援	6	4	4	8
特別研究員奨励費	2	2	2	4
国際共同研究強化(A)	0	0	0	0
国際共同研究強化(B)	0	0	1	1
国際共同研究(帰国発展)	0	0	1	1
奨励研究	1	0	0	0
合計	281	102	173	275

注) ①採択件数は、2022年11月1日現在の件数となり、転入者及び転出者は除く。 ②延長(基金)、学外分担者を除く。

## プレスリリース

(2022.1~2022.11)

ホームページでもご覧いただけます  
<http://www.jikei.ac.jp/jikei/press.html>



配信日	タイトル	発信者
2022/1/13	脳動脈瘤の発生要因を世界で初めて発生前のデータから流体力学的に解析 ～血流による血管壁への引張力とエネルギー損失が影響～	脳神経外科講座 村山雄一講座担当教授
2022/1/27	東京慈恵会医科大学と大阪のモノづくり企業がタッグ産学医工連携で開発した 内視鏡手術向け機器、国内医療機関での採用が200施設を突破	内視鏡医学講座 炭山和毅講座担当教授、権俊介助教
2022/1/27	島津製作所と臨床分野での包括連携協定を締結 ～産学連携により最先端の研究成果の臨床実装へ～	学校法人慈恵大学
2022/3/1	ブタ腎臓移植は、胎仔腎臓の方が拒絶反応が弱いーサルを用いた世界初の証明ー	腎臓・高血圧内科 横尾隆講座担当教授
2022/3/10	中耳真珠腫に対する自家鼻腔粘膜上皮細胞シートを使用した医師主導治験を開始 耳鼻咽喉科分野で国内初の再生医療製品実用化を目指す	耳鼻咽喉・頭頸部外科 小島博己講座担当教授、山本裕教授、山本和央講師、森野常太郎講師
2022/3/11	SARS-CoV-2ウイルスに対する小児および成人の免疫応答の違いを明らかに	呼吸器内科 吉田昌弘助教
2022/3/17	かかりつけ医のプライマリ・ケア機能がコロナ禍での予防医療の質向上に寄与 ～新型コロナウイルス感染拡大後のプライマリ・ケアに関する全国調査～	総合医学研究センター 臨床疫学研究部 青木拓也講師、松島雅人教授
2022/3/9	ヒトiPS細胞由来内耳オルガノイドを用いた薬剤性難聴の治療法開発 ～高効率な培養法と、世界初の蝸牛神経節細胞様細胞による薬効評価系を確立～	再生医学研究部 岡野James洋尚教授、耳鼻咽喉科学講座 小島博己講座担当教授、栗原渉助教、神経科学研究所 加藤総夫教授
2022/4/4	環境中のRNAが細菌の棲家として利用される仕組みを解明 ～RNAを標的とした難治性細菌感染症の予防や治療法の開発に期待～	細菌学講座 千葉明生助教、杉本真也准教授、金城雄樹講座担当教授
2022/5/17	シスチン尿症の原因となるタンパク質合成異常のしくみを解明	臨床検査医学講座 永森收志准教授、Pattama Wiriyasermkul特任助教
2022/5/19	日本の医学部・医科大学におけるLGBT未教育の割合 臨床前教育30.5%、臨床教育で47.2%	臨床疫学研究部 吉田絵理子研究生、松島雅人教授、教育センター 岡崎史子准教授
2022/5/23	発がんの原因となるゲノム不安定性を抑制する新規分子を同定 ～ゲノム不安定性の維持や発がんメカニズムの更なる解明へ期待～	生化学講座 河村明良医学科生、吉田彩舟講師、吉田清嗣講座担当教授
2022/7/4	抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除する方法を 世界で初めて開発新型コロナウイルスや薬剤耐性病原体の克服への期待	消化器・肝臓内科 光永真人講師、基盤研究施設 岩瀬忠行准教授
2022/7/7	東京慈恵会医科大学と豊島岡女子学園中学校・高等学校は 中高大連携に関する協定を締結しました	東京慈恵会医科大学
2022/7/11	東京慈恵会医科大学と芝中学校・芝高等学校は 中高大連携に関する協定を締結しました	東京慈恵会医科大学
2022/7/11	うつ病との関連が指摘される神経伝達物質(セロトニン)が 興奮性シナプス伝達を調節する仕組みを解明	薬理学講座 西條琢真博士研究員(現:愛知県医療療育総合センター 発達障害研究所 分子病態研究部門)、鈴木江津子講師、杉山俊彦講座担当教授
2022/7/19	黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害する化合物「JBD1」を発見 ～難治性バイオフィルム感染症に対する新たな制御技術の開発に期待～	細菌学講座 奥田賢一講師、金城雄樹講座担当教授
2022/8/8	熱中症の発症予測・メカニズム解明にも寄与タンパク質の過敏な熱応答で 体温上昇が止まらない!	基盤研究施設 山澤徳志子准教授、小比類巻生助教、細胞生理学講座 福田紀男准教授
2022/8/25	脊椎動物の水から陸への進出にともなう肺の進化を世界で初めて解明	解剖学講座 辰巳徳史講師、岡部正隆講座担当教授
2022/8/31	日本で初めて開発された治療計画プログラムを付随した 脳動脈瘤コイル留置用ステントが薬事承認	脳神経外科講座 村山雄一講座担当教授
2022/9/7	超高磁場MRIと神経トラクトグラフィーによる嗅神経の可視化に世界で初めて成功 ～嗅覚障害を診断するための新しい検査方法開発に期待～	耳鼻咽喉科学講座 栗原渉助教、齋藤誠助教、小島博己講座担当教授、再生医学研究部 岡野James洋尚教授
2022/9/8	マゴットセラピーの新規医療用ウジの同定と評価方法を世界で初めて確立 ～難治性潰瘍などの治療に期待～	熱帯医学講座 嘉藤洋陸講座担当教授、形成外科学講座 宮協剛可講座担当教授、法医学講座 岩橋公晴講座担当教授
2022/9/20	シングルセル解析技術を用いCOPD患者における新規の2型肺胞上皮細胞を発見 ～COPD病態の解明が期待される～	内科学講座(呼吸器内科) 渡邊直昭助教、藤田雄講師、荒屋潤教授、桑野和香講座担当教授、外科学講座(呼吸器外科) 大塚崇講座担当教授
2022/9/26	肝がん早期診断の新規血液バイオマーカーとして血清PKCδを 同定既存マーカー陰性例でも陽性例があり肝がん早期発見や予後向上に期待	生化学講座 本橋沙耶医学生(当時)、山田幸司講師、吉田清嗣講座担当教授、内科学講座(消化器・肝臓内科) 及川恒一講師
2022/9/26	肝がんにおけるタンパク質の新しい分泌機構の解明 ～肝がんの早期発見や新規治療法への応用に期待～	内科学講座(消化器・肝臓内科) 及川恒一講師、猿田雅之講座担当教授、生化学講座 山田幸司講師、吉田清嗣講座担当教授、基盤研究施設 坪田昭人教授
2022/9/27	腎臓のネフロン数とポドサイト数が正相関することを世界で初めて解明: ポドサイト数を正確かつ簡便に測定する手法を確立	産婦人科学講座 田畑潤哉助教、岡本愛光講座担当教授
2022/9/27	がんゲノム医療のさらなる拡大へ向けた一歩コンピュータ解析で 意義不明変異のなかに治療標的となる新たな遺伝子変異を発見	腎臓・高血圧内科 春原浩太郎助教、坪井伸夫准教授
2022/10/4	中内耳CT(コンピュータ断層撮影)を用いた中耳真珠腫進展範囲に関する 人工知能診断システムの作成に世界で初めて成功 ～希少疾患に対する人工知能研究の発展に期待～	耳鼻咽喉科学講座 高橋昌寛助教、山本裕教授、小島博己講座担当教授、放射線医学講座 馬場亮助教、尾尻博也講座担当教授
2022/10/7	悪性高熱症を単一細胞レベルで再現することに世界で初めて成功! ～吸入麻酔薬や筋弛緩薬投与後の体温上昇メカニズム解明へ期待～	基盤研究施設 坪井義高医学科生、山澤徳志子准教授、細胞生理学講座 福田紀男准教授
2022/10/8	真珠腫性中耳炎の発症への神経堤由来細胞の関与を世界で初めて解明 ～p75タンパク質が真珠腫性中耳炎を進行させる～	耳鼻咽喉科学講座 福田智美講師、小島博己講座担当教授、解剖学講座 辰巳徳史講師、岡部正隆講座担当教授
2022/10/20	高齢化率世界一の日本のコロナ禍超過死亡率が低い要因を解明 コロナ禍前の60歳平均余命が長い国ほどコロナ禍超過死亡率は低い	分子疫学研究部 浦島充佳教授
2022/11/4	ヘルペスウイルスが宿主のDNAメチル化を引き起こすメカニズムを解明 ～単純ヘルペスウイルス1型感染がアルツハイマー病発症の危険因子であることを示唆～	小坂塚衣医学科生、ウイルス学講座 小林伸行准教授
2022/11/15	在宅療養高齢患者さんの在宅死の累積発生率と要因を多施設共同の追跡調査で明らかに! ～在宅療養患者さんと医療者、そして医療政策担当者への基礎的資料を提供～	臨床疫学研究部 松島雅人教授



# Notice

## 院内表彰受賞者

(2021.4~2022.11)

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2021.7	8E病棟	8E病棟一同	8E病棟一同	
2021.7	看護部(放射線外来)	看護師	荒川 亜矢子	
2021.7	看護部(18H病棟)	看護師	関口 茜	
2021.7	看護部(20H病棟)	看護師	20H病棟一同	
2021.7	泌尿器科	医師	佐々木 裕	
2021.12	看護部(11H病棟)	看護師	11H病棟一同	
2021.12	看護部(16H病棟)	看護師	16H病棟一同	
2021.12	看護部(7H病棟)	看護師	7H病棟一同	
2021.12	看護部(10E病棟)	看護師	10E病棟一同	
2021.12	看護部(救急部)	ナースアシスタント	朝比奈 杏樹	患者満足度向上に資する表彰
2022.2	栄養部	栄養部一同	栄養部一同	
2022.2	看護部(17H病棟)	看護師	17H病棟一同	
2022.2	慈恵実業(アズマ)	清掃員	三吉 公人	
2022.2	慈恵実業(ダスキン)	清掃員	太田 倫敬	

附属病院(本院)

葛飾医療センター

2022.3	消化器・肝臓内科	医師	安藤 理孝	
2022.3	腎臓・高血圧内科	医師	増田 直仁	
2022.3	循環器内科	医師	平木 那奈	
2022.3	脳神経外科	医師	中山 陽介	
2022.3	内科レジデント	医師	中西 秀	
2022.3	小児科	医師	小児科一同	

「2021年度救急医療功労者」救急医療に貢献したことによる院長表彰

2021.10	総合診療部	医師	浅野 混佑	救急医療業務功労者表彰
2021.10	業務課	事務員	尾崎 真紀	
2022.3	慈恵実業(太平ビルサービス)	警備員	警備員一同	ベストホスピタリティ表彰
2022.3	総合診療部	医師	金子 周平	
2022.3	呼吸器内科	医師	千田 健太郎	救急医療業務功労者表彰
2022.3	看護部(放射線外来)	看護師	看護師一同	
2022.3	麻酔部	医師	ハシチウオヴィッチ トマシュ	
2022.3	中央検査部(微生物検査室)	臨床検査技師	臨床検査技師一同	チーム医療業務功労者表彰
2022.3	ICU	看護師	看護師一同	
2022.10	消化器・肝臓内科	医師	田中 孝幸	救急医療業務功労者表彰
2022.10	外科	医師	蛭間 善章	

附属第二病院

2022.1	7C病棟	7C病棟一同	7C病棟一同	
2022.1	5C病棟	5C病棟一同	5C病棟一同	
2022.1	看護部(手術室)	看護師	手術室一同	
2022.1	放射線部	医師	医師一同	2021年度 医療安全推進週間企画 「患者確認行為の徹底に関する取り組み」 優秀部署
2022.1	看護部(放射線部)	看護師	看護師一同	
2022.1	放射線部	臨床放射線技師	臨床放射線技師一同	
2022.1	G7外来	G7外来一同	G7外来一同	
2022.1	慈恵実業(日本設備)	警備員	時田 章	2021年度 医療安全推進週間企画 「感染対策強化に関する標語」最優秀者
2022.1	ICU病棟	看護師	星 綾香	

附属柏病院

# Notice

## メディア掲載一覧

(2022.1~2022.11)

ホームページでもご覧いただけます  
http://www.jikei.ac.jp/jikei/media.html



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
1月4日	日本経済新聞	持続血糖モニター(Continuous Glucose Monitoring: CGM)が、医療に革新をもたらす可能性	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
1月31日	週刊朝日ムック	医者と医学部がわかる 2022	人工知能医学研究部 准教授 中田 典生
2月7日	NHK Eテレ	きょうの健康 糖尿病 対策の最新トレンド 薬の新戦略・ウィズコロナ時代のリスクと対策1	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
2月8日	NHK Eテレ	きょうの健康 糖尿病 対策の最新トレンド 薬の新戦略・ウィズコロナ時代のリスクと対策	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
2月9日	NHK Eテレ	きょうの健康 糖尿病 対策の最新トレンド 薬の新戦略・ウィズコロナ時代のリスクと対策3	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
2月10日	NHK Eテレ	きょうの健康 糖尿病 対策の最新トレンド 薬の新戦略・ウィズコロナ時代のリスクと対策4	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
2月10日	レジデント	徹底解剖 なぜ治らないか? 行けばラクになるか? 精神科、心療内科のウラ側	
2月20日	日本の科学者	マインドフルネスが効くって本当? 薬物療法、認知行動療法、森田療法・精神科治療「最新」ガイド 日本の科学者誌 2022年3月号 新型コロナウイルス感染拡大に伴う 第一回緊急事態宣言が研究者・技術者へ与えた影響	精神医学講座 准教授 館野 歩 薬理学講座 講師 志牟田 美佐
3月3日	NHK BSP	ヒューマニエンス「呼吸」不完全が生んだ神秘	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
3月20日	NHK BSP	医師が教える「健康旅 出演者の鎌倉小旅行にあたり、西村理明教授が健康のコツを伝授	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
3月20日	TBS	健康カブセル! ゲンキの時間「医学の概念を打ち破った医療人」	整形外科科学講座 講座担当教授 斎藤 充
3月22日	NHK World	――	麻酔科学講座 教授 倉田 二郎
3月26日	BS-TBS	ヒポクラテスの誓い	外科学講座 講座担当教授 大木 隆生
3月30日	Forbes Japan	2022年5月号別冊 慈恵医大がリードするICT、AIを活用した日本のヘルスケアの将来展望	脳神経外科科学講座 講座担当教授 村山 雄一 先端医療情報技術講座 准教授 高尾 洋之 先端医療情報技術講座 訪問研究員 坂野 哲平 先端医療情報技術講座 訪問研究員 畑中 洋亮
4月1日	夕刊フジ	名医はこの人 ブラックジャックを探せ 機械では不可能 股関節の低侵襲手術の達人	整形外科 副診療部長 藤井 英紀
4月4日	日本医事新報社	【職者の眼】「コロナ禍における「かかりつけ医機能」の維持・向上が今後の地域医療の基盤になる」	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
4月5日	日本経済新聞	「iPS細胞から内耳の「ミニ臓器」、難聴の治療法研究に活用も」	耳鼻咽喉科学講座 講師 栗原 渉 神経科学研究所 教授 加藤 総夫 再生医学研究部 教授 岡野ジェームズ洋尚
4月5日	科学技術振興機構	環境中のRNAが細菌のすみかとして利用される仕組みを解明 ～RNAを標的とした難治性細菌感染症の予防や治療法の開発に期待～	細菌学講座 助教 千葉 明生 准教授 杉本 真也
4月5日	朝日新聞	iPS細胞で「内耳」のミニ臓器 慈恵医大など難聴の治療法研究への応用期待	――
4月5日	日本経済新聞	慈恵医大・東大・JST 環境中のRNAが細菌の棲家として利用される仕組みを解明	細菌学講座 助教 千葉 明生 准教授 杉本 真也
4月7日	マイナビニュース	黄色ブドウ球菌は周囲のRNAをバイオフィルムの形成に利用する 慈恵医大などが発見	細菌学講座 助教 千葉 明生 准教授 杉本 真也
4月7日	沖縄タイムス	ipsから培養 内耳組織を作製 慈恵医大などチーム	――
4月8日	日本経済新聞	「内耳オルガノイド病の臓器再現、創薬促す」	耳鼻咽喉科学講座 講師 栗原 渉 神経科学研究所 教授 加藤 総夫 再生医学研究部 教授 岡野ジェームズ洋尚
4月8日	日本経済新聞	Techワード オルガノイド 病の臓器再現、創薬促す	耳鼻咽喉科学講座 助教 栗原 渉
4月8日	下野新聞	痛みに第3のメカニズム 痛覚変調性疼痛 中枢神経の回路が変化 心理療法など治療法開発	神経科学研究所 教授 加藤 総夫
4月9日	中部経済新聞	ズームアップ iPSで人の内耳作製	――
4月12日	京都新聞	痛みに第3のメカニズム 痛覚編調整疼痛 中枢神経の回路が変化	神経科学研究所 教授 加藤 総夫
4月13日	東京新聞	すこやかゼミ 痛みに第三のメカニズム 中枢神経の回路が変化 新たな分類の確立 治療法開発を後押し	神経科学研究所 教授 加藤 総夫
4月13日	京都新聞	ips細胞で人の内耳作製	――
4月14日	日本経済新聞	慈恵医大と東大 環境中のRNAが細菌の棲家として利用される仕組みを解明	細菌学講座 助教 千葉 明生 准教授 杉本 真也
4月14日	時事メディカル	内視鏡で胃を縮小して傷を残さない減量手術(東京慈恵会医科大学内視鏡医学 炭山 和毅教授)～	内視鏡医学 講座担当教授 炭山 和毅
4月15日	読売新聞	ヨミドクター がん支持医療の重要性と附属病院腫瘍センターの新たな取り組み	腫瘍センター センター長 宇和川 匡
4月17日	時事メディカル	新しい治療法もー鼻腔腫瘍 ～出血抑え、機能を温存(東京慈恵会医科大学付属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 大村和弘診療医長)～	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
4月17日	中国新聞	トビックス iPSで人の内耳作製 薬の効果分析に活用	――
4月17日	宮崎日日新聞	高木兼寛偉業たたえる 都内で3年ぶりのふ会	学長 松藤 千弥
4月18日	神戸新聞	「けが」神経の障害」のどちらでもない疼痛 第3の痛み 新たな分類確立 中枢神経の変化原因、治療法開発に光	神経科学研究所 教授 加藤 総夫
4月18日	長崎新聞	科学トビックス iPSで人の内耳作製	――
4月18日	LINE NEWS	「認知症カフェの共通理念」とは? みんなの意見総仕上げ	精神神経科 教授 藤田 雅弘
4月19日	zakzak	前立腺の最新医療 血液検査「phi」が保険適用に PSA検査ではがんの有無や悪性度の高低が判定しづらい場合の追加措置	泌尿器科 講師 佐々木 裕
4月19日	中国新聞	痛みの原因 中枢神経の変化でも 第3のメカニズム「痛覚変調性疼痛」治療法の開発に期待	神経科学研究所 教授 加藤 総夫
4月20日	NHKラジオ	NHKジャーナル 「変わる糖尿病治療薬」	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
4月20日	Zakzak	選択肢さまざまな前立腺がんの治療 開腹手術よりも患者の回復早い「ロボット療法」、手術と同等の効果「放射線療法」など	泌尿器科 診療副部長 三木 健太
4月21日	Zakzak	がんの局所再発に「凍結療法」という選択肢 マイナス40度で10～15分冷却、がん細胞を壊死させる	泌尿器科 診療副部長 三木 健太
4月22日	Zakzak	放射性物質を注射「がん細胞」だけにダメージ与える「PSMA標的治療」 故・西郷輝彦さんは有効性を報告	第三病院長 古田 希
4月22日	朝日新聞	戦地から日かけ娘が住む泊江へ ウクライナ女性、決死の脱出行	泌尿器科 准教授 古田 昭
4月23日	Zakzak	前立腺肥大症に 薬ない手術ない「ウロリフト」 性機能も守られ、再び尿道が狭まる再狭窄は約1割	東京慈恵医大チーム
4月23日	河北新報	iPSから内耳作製	小児科 診療部長 勝沼 俊雄
4月27日	時事メディカル	チーム医療でアレルギー患者をサポート ～診療の地域格差をなくす(東京慈恵会医科大学付属第三病院内小児科 勝沼 俊雄 診療部長)～	――
4月30日	BS-テレ東	教えて!ドクター 家族の健康 食後高血糖に要注意!	内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科) 講座担当教授 西村 理明
5月2日	なかまある	「この人しゃべりません」家族が断言した人が笑顔でおしゃべり 今まで話さなかった理由とは	精神神経科 教授 藤田 雅弘
5月3日	AERAdot.	日本は医療AI後進国! コロナ禍で開発が加速した世界に追いつくには? 東京慈恵会医科大学・中田医師が解説	放射線医学講座 准教授 中田 典生
5月5日	沖縄タイムス	糖尿病の個別指導 個別化へ 質問票の有効性実証 東大など	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月9日	夕刊フジ	ここまで進んだ最新医療 新井典 東京慈恵会医科大学 横尾隆教授に聞く 膝の力を借りた腎臓再生医療	腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆
5月9日	Medical Tribune	鼻腔粘膜細胞シート、ヒポタル試験が進行中 世界に先駆け中耳粘膜再生医療の実用化へ	耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師 森野常太郎
5月9日	HealthDayNews	かかりつけ医のありなしでバンデミック中の予防医療実施率に有意差	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
5月10日	Zakzak	ブタの力を借りた腎臓再生医療 現在はブターサル間で慎重に研究 東京慈恵会医科大学・横尾隆教授に聞く	腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆
5月10日	宮崎日日新聞	独自質問票で傾向・特徴把握/糖尿病の食事指導 個別に 東大など効果検証/具体的な改善策提案	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
5月11日	毎日新聞Web	ほむほむ先生のアレルギー入門 子どものアトピー性皮膚炎はアレルギー体質への入り口? 侮ってはいけない!「経皮感作」	小児科 助教 堀向 健太
5月11日	琉球新報	糖尿病の食事指導 個別化へ 自己記入質問票で傾向把握/血糖値改善効果を実証	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月13日	時事メディカル	腎疾患対策 推進プロジェクト 日本医療政策機構	腎臓高血圧内科(晴海トリートメントクリニック) 診療医長(所長) 横山啓太郎
5月13日	@DIME	かかりつけ医がある人は/パンデミック時の予防医療実施率が高い 東京慈恵会医科大学報告	臨床疫学研究所 講師 青木 拓也
5月16日	長崎新聞	医療新世紀 糖尿病食事指導個別化へ	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月16日	日本経済新聞	横浜市大と慈恵医大 シスチン尿症の原因となるタンパク質合成異常のしくみを解明	臨床検査医学 准教授 永森 收志
5月17日	Digital PR Platform	シスチン尿症の原因となるタンパク質合成異常のしくみを解明	臨床検査医学 准教授 永森 收志
5月17日	日経BP	かかりつけ医の有無で/パンデミック中の予防医療実施率に有意差	臨床疫学研究所 講師 青木 拓也
5月17日	河北新報オンライン	シスチン尿症の原因となるタンパク質合成異常のしくみを解明	臨床検査医学 准教授 永森 收志
5月19日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大 葛飾医療センター 小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
5月20日	化学工業日報	IPS由来ミニ臓器 続々	――
5月20日	東京新聞	性的少数者について医学学生への教育不足	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月20日	化学工業日報	IPS由来ミニ臓器 続々	――
5月20日	信濃毎日新聞	医学生へのLGBT教育不足 慈恵医大調査 臨床実習前、未実施3割	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月20日	愛媛新聞	LGBT教育 医学生で不足 全国82校調査 3割が臨床前見実施	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月20日	沖縄タイムス	医学生 LGBT教育不足 「学ばねば配慮できず」臨床前に未実施3割	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月20日	神奈川新聞	LGBT教えず 3割/医科大と大学医学部 臨床実習前の学生	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月20日	山梨日日新聞	医学生LGBT教育不足 臨床実習前3割未実施	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月21日	NHK Eテレ	チョイス@病気になったとき 小児気管支喘息について	小児科学講座(第三病院) 教授 勝沼 俊雄
5月21日	日本経済新聞	カラダづくり うつ病 ウイルスも関与か 疲労蓄積 鼻奥に潜伏感染 (日経プラスワン)	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
5月21日	河北新報	LGBT教育 未実施3割 慈恵医大調査 臨床前の医学生	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月21日	中日新聞	臨床前3割LGBT教えず 慈恵医大グループが医大・医学部を調査	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月23日	NHK BSP	ヒューマニエンス～40億年のたくらみ 「痛み」それは心の起源	神経科学研究部 教授 加藤 総夫 麻酔科学講座 教授 倉田 二郎
5月23日	神戸新聞	日本の医学生、LGBT教育不足	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月23日	なかまある	命の最期について話していますか? ACP(人生会議)とは何か、説明します	総合診療部 診療部長 三浦靖彦
5月23日	日本医事新報	JAK阻害薬による関節症性乾癬の治療について	皮膚科 准教授 伊藤 寿啓
5月23日	東奥新聞	医療新世紀 糖尿病の食事指導個別化 質問票使用の有効性実証 東大など研究グループ	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月23日	神戸新聞	糖尿病 食事指導に新潮流 東大など効果実証 独自の質問票で改善策 個別に提案	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月24日	時事メディカル	日本ではLGBTに関する医学教育が不足	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月24日	AERAdot.	ランドセルが重い!子どもの肩や腰への悪影響は? 負担を軽くする方法を医師が解説	整形外科 教授 大谷 卓也
5月24日	京都新聞	OurVoices 性を考える 医学科のLGBT教育「不足」 慈恵医科大調査 臨床前「未実施」3割	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月25日	朝日新聞	心臓病 早期に緩和ケア話し合っ 関連学会提言 症状変化に備え、治療と両立を	臨床薬理学講座 教授 志賀 剛
5月25日	FINDERS	ある日、自分が「がん」だと知ったら? アピアランス・サポート東京	患者支援・医療連携センター 教授 石川 智久 看護部 看護師 紙屋 友紀
5月25日	大学ジャーナル オンライン	日本の医学教育でLGBTに関する教育が不足 東京慈恵会医科大学が実施説明	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月25日	岐阜新聞	医学科へのLGBT教育 臨床前未実施3割	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月26日	千葉日報	医学科のLGBT教育不足 調査で臨床前未実施3割	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月26日	福井新聞	ズームアップ ipsで人の内耳作製 東京慈恵医大など	耳鼻咽喉科学講座 助教 栗原 渉
5月28日	YomiDr.	日本ではLGBTに関する医学教育が不足	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月30日	AERAdot.	慢性痛患者は痛みを気にしすぎ? VRで改善も…痛みの最新事情	神経科学研究部 教授 加藤 総夫
5月30日	HUFFPOST	「LGBTについて全く教えない」医学部が3割超。 北米の4倍、「受診ためらう当事者も」と専門家が警鐘	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月30日	夕刊フジ	糖尿病 食事指導は個別化へ 質問票で目標が具体的に 効果も実証	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
5月30日	琉球新報	医学生へのLGBT教育不足 臨床前教育での未実施 日本30.5% カ・米ナダ6.8%	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
5月31日	NikkeiStyle	うつの発症にウイルスが関係? 五月病との関連も	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
5月31日	health day news	かかりつけ医のありなしで/パンデミック中の予防医療実施率に有意差	臨床疫学研究所 講師 青木 拓也
5月31日	下野新聞	食べた頻度 質問票で把握 糖尿病 食事指導個別化へ 東大などのグループ 目標具体化、効果を実証	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
6月2日	中日新聞	分娩予約受付再開 新宮市医療センター 勤務体制復活受け	産婦人科学 非常勤助教 坪野 貴之
6月4日	読売新聞	一病息災 前立腺がん(1)＝脚本家 三谷 幸喜 60 医師との運命的な出会い	泌尿器科学講座 教授 額川 晋
6月5日	日経ビジネス オンライン	痛風・尿酸値が怖いなら、ビールより酒量に気をつけよ! 酒量が多いほど痛風リスクが高まる!	大学 名誉教授 細谷 龍男
6月9日	中国新聞	LGBT教育 医学生に不足 慈恵医科大調査 「臨床前に実施せず」3割 米など選考「機会確保」を	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
6月12日	読売新聞	サイエンスReport オルガノイド 試験管内に「臓器」ips・ES細胞で	耳鼻咽喉科学講座 助教 栗原 渉
6月13日	PRTIMES	ピフィス菌摂取による軽度認知障害患者の認知機能改善ならびに脳萎縮進行の抑制効果を確認	消化器・肝臓内科 大草 敏史
6月14日	PRTIMES	ピフィス菌摂取による軽度認知障害患者の認知機能改善ならびに脳萎縮進行の抑制効果を確認	消化器肝臓内科
6月14日	デジタルプラット フォーム	COVID-19患者における入院時の腎機能障害とその重症度が急性期の予後不良因子となることを証明	内科学(腎臓高血圧内科) 教授 横尾 隆 准教授 坪井 伸夫
6月15日	医療NEWS	胎児の性別による妊娠リスク、ビッグデータ解析で関連が明らかになり―成育医療センター	産婦人科学講座 助教 舟木 哲
6月15日	介護ポストセブン	食中毒に注意! 意外と知らない身近な野菜・果物の天然毒やアレルギー物質【まとめ】	臨床検査医学講座 教授 海渡 健
6月15日	朝日新聞	透析しない高齢患者の希望に沿って 見合わせるための手順や緩和ケア示したガイド作成	総合診療部 教授 三浦 靖彦
6月17日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学附属病院 新橋健診センター ミレニアの認知機能スケール「あたまの健康チェック(R)」の提供を開始	新橋健診センター
6月23日	NEWSポストセブン	IPS細胞で人工臓器を作り「薬剤性難聴」の治療薬を開発する研究進む	耳鼻咽喉科学講座 助教 栗原 渉
6月24日	AERAdot.	「動脈硬化」に関する数値変化に要注意 健診の先延ばしで自覚症状なく重症化も	大学院医学研究科 健康科学 教授 和田 高士
6月27日	熊本日日新聞	医学生へのLGBT教育不足	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
6月28日	日経ビジネス オンライン	尿酸値を上げない酒の飲み方の大事なポイントとは? 左党の尿酸対策(後編)～お酒を選ぶなら赤ワインがいい?～	大学 名誉教授 細谷 龍男
6月29日	日本医事新報	アトピー性皮膚炎に対する タクロリムス、JAK阻害薬、PDE4阻害薬の各外用薬の使い分けについて	皮膚科 准教授 伊藤 寿啓
6月30日	日本経済新聞	大高、医工連携支援を加速 25年度に製品化100件目標	内視鏡医学 助教 榎 俊介
7月1日	日本経済新聞	中小の技術、医療で生かす 大高、医・工のマッチング支援 25年度に100件事業化へ	内視鏡医学 助教 榎 俊介
7月4日	日本経済新聞Web	慈恵医大と横浜市大など 抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除する方法を開発	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月4日	digital PR Platform	抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除する方法を世界で初めて開発 新型コロナウイルスや薬剤耐性病原体の克服への期待	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人

年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
7月5日	optronics online	横浜市大ら、抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月6日	化学工業日報	抗体と近赤外光で病原体を選択除去 慈恵医大と横浜市大	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人 学長 松藤 千弥
7月6日	時事メディカル	医学部トップインタビュー 病気を診ずして病人を診よ～社会的な視野を持った医師を育てる―東京慈恵会医科大学～	――
7月6日	MIT TECHNOLOGY REVIEW	横浜市大ら、抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月7日	NHK総合	あさいち 健康診断のお悩み解消SP	大学院医学研究科 健康科学 教授 和田 高士
7月7日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 東京慈恵会医大 葛飾医療センター 経口免疫療法	小児科 助教 堀向 健太
7月8日	PRTIMES	Craif、東京慈恵会医科大学の関節性膀胱炎に関する共同研究成果が Translational Andrology and Urologyに掲載されました	泌尿器科学 助教 古部 文彦
7月10日	NHKニュース	光に反応する化学物質で細菌死滅に成功 感染症への応用期待	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月10日	NHKオンライン	光に反応する化学物質で細菌死滅に成功 感染症への応用期待	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月10日	NHKNEWSWEB	光に反応する化学物質で細菌死滅に成功 感染症への応用期待	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月11日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学と芝中学校 芝高等学校は中高大連携に関する協定を締結しました	――
7月11日	時事メディカル	抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除する方法を世界で初めて開発	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月11日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学と豊島岡女子学園中学校・高等学校は中高大連携に関する協定を締結しました	――
7月11日	日経バイオテック	Craif、東京慈恵会医科大学の関節性膀胱炎に関する共同研究成果が Translational Andrology and Urologyに掲載されました	泌尿器科学 助教 古部 文彦
7月11日	時事メディカル	うつ病との関連が指摘されるセロトニンが興奮性シナプス伝達を調節する仕組みを解明	薬理学 ポストドクトラルフェロー 西條 琢真 講師 鈴木江津子 教授 岡山 俊彦
7月12日	マイナビニュース	セロトニンが興奮性シナプス伝達を調節する仕組み 慈恵医大が解明	薬理学 ポストドクトラルフェロー 西條 真 講師 鈴木江津子 教授 岡山 俊彦
7月12日	Medical Tribune	心房細動アブレーション、日本の最新状況	循環器内科 教授 山根 慎一
7月12日	日経産業新聞	中小の技術、医療で活用 大高、医・工のマッチング支援	内視鏡医学 助教 榎 俊介
7月13日	ITストラト	光に反応する化学物質で病原体を選択的に駆除 慈恵医大らが技術開発	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月16日	DIAMONDOnline	“日本一の名医”を育てた「横を見ずして前を見る」という言葉	耳鼻咽喉科学講座 診療医長 大村 和弘
7月16日	毎日新聞	光免疫療法 コロナも攻撃 東京慈恵会医科大など研究チーム ビンポイントで正常な細胞に影響せず	消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月17日	DIAMONDOnline	「教わる」姿勢のない人は、「教える」ことができない	耳鼻咽喉科学講座 診療医長 大村 和弘
7月17日	信濃毎日新聞	抗体と近赤外光で狙い撃ち 細菌・真菌・ウイルスに有効 慈恵医大 新興感染症対策に期待	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月18日	DIAMONDOnline	「やりたいこと」が見つからない人がやるべき「たった一つのこと」	耳鼻咽喉科学講座 診療医長 大村 和弘
7月19日	DIAMONDOnline	年に「週間」のライフワークで、人生は圧倒的に「豊か」になる	耳鼻咽喉科学講座 診療医長 大村 和弘
7月19日	日本経済新聞	慈恵医大と東大、黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害する化合物「JBD1」を発見	細菌学講座 講師 奥田 賢一
7月20日	読売新聞	一病息災 前立腺がん(1)＝脚本家 三谷 幸喜さん 61 医師との運命的な出会い	泌尿器科学講座 教授 額川 晋
7月20日	時事メディカル	黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害する化合物「JBD1」を発見 東京慈恵会医科大学・東京大学	細菌学講座 講師 奥田 賢一
7月21日	adcom media	抗体と近赤外光で病原体を選択的に駆除する方法を開発 横浜市立大学、東京慈恵会医科大学	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
7月21日	ラジオNIKKEI	みんなで予防!感染症・健康アドバイス メタボ	大学院医学研究科 健康科学 教授 和田 高士
7月22日	ラジオNIKKEI	みんなで予防!感染症・健康アドバイス 食事/バランスガイド	大学院医学研究科 健康科学 教授 和田 高士
7月23日	ラジオNIKKEI	みんなで予防!感染症・健康アドバイス 自己測定機器	大学院医学研究科 健康科学 教授 和田 高士
7月23日	テレビ朝日	ANNニュース コロナ後遺症の倦怠感など 認知症治療薬に効果期待	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
7月24日	TBS	健康カブセル! ゲンキの時間 医師が実践する夏バテ予防法!	腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆
7月26日	日刊工業新聞	「黄色ブドウ球菌」働き阻害 慈恵医大など 化合物発見	細菌学講座 講師 奥田 賢一
7月29日	日本医事新報	医療者が「LGBTQ」について学ぶの先に―DE&Iと医療【プライマリ・ケアの理論と実践(151)】	臨床疫学研究所 研究生 吉田絵理子
7月30日	NHK BSP	「バーチャル」無いものをあると思える力! ヒューマニエンス	附属第三病院 1年目看護師
8月1日	愛媛新聞	糖尿病食事指導「個別化」で効果	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 大村 有加
8月1日	日経産業新聞	抗体と近赤外光で細菌など死滅	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
8月5日	読売新聞オンライン	中高大の連携協定、慈恵医大と締結…芝中	――
8月9日	日本経済新聞WEB	宮崎大、慈恵医大と連携して医師養成 不足・偏在解消へ	――
8月9日	時事メディカル	熱中症の発症予測・メカニズム解明にも希と～タンパク質の過敏な熱応答で体温上昇が止まらない!～ 悪性高熱症の熟産生暴走メカニズム 東京慈恵会医科大学 大阪大学 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	細胞生理学講座 准教授 福田 紀夫 基礎研究施設 准教授 山澤徳志子
8月10日	宮崎日日新聞	新時代の医療 宮大人材育成 慈恵会医科大と連携 文科省採択	――
8月12日	医療NEWS	悪性高熱症、RyR1変異による熟産生暴走メカニズムを解明―阪大ほか	細胞生理学講座 准教授 福田 紀夫 基礎研究施設 准教授 山澤徳志子
8月18日	MIT TECHNOLOGY REVIEW	悪性高熱症の仕組みを解明、熱中症の予防にも期待＝量子研など	――
8月20日	日本経済新聞WEB	宮崎大・慈恵医大、医師養成で連携	――
8月25日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大 葛飾医療センター 小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
8月25日	時事メディカル	脊椎動物の水から陸への進出にもとうる肺の進化を世界で初めて解明 東京慈恵会医科大学、東京大学	解剖学講座 講師 辰巳 徳史 教授 岡部 正隆
8月26日	MedPeer	MEDICAL NEWS LINE 光免疫療法	総合医学研究センター-基礎研究施設 准教授 岩瀬 忠行 消化器・肝臓内科 講師 光永 真人
8月26日	マイナビニュース	脊椎動物は水中から陸上に進出する際に肺の形態を変化させた、慈恵医大などが解明	解剖学講座 講師 辰巳 徳史 教授 岡部 正隆



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
8月27日	NHK Eテレ	チョイス@ 病気になったとき(再)「進化する带状疱疹治療」	皮膚科学講座 非常勤講師 松尾 光馬
8月28日	TBS	健康カプセル! ゲンキの時間「必見!本当は怖いヘルペスと带状疱疹」	皮膚科学講座 非常勤講師 松尾 光馬
8月31日	日本掲載新聞Web	DeNA、アルム・PENTAS・慈恵医大が共同開発した脳動脈瘤コイル留置用ステントの薬事承認を発表	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山 雄一
8月31日	PR TIMESほか24件	日本で初めて開発された治療計画プログラムを付随した脳動脈瘤コイル留置用ステントが薬事承認	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山 雄一
8月31日	NHK あさいチ	「医師が患者になって初めてわかった 実際に役立つ“患者術”」	先端医療情報技術研究所/脳神経外科学講座 准教授 高尾 洋之
9月1日	毎日新聞	在宅ケア体験記(中)＝緩和ケア 早期に受けていれば	第三病院 総合診療部 助教 村瀬樹太郎
9月1日	毎日新聞Web	在宅ケア体験記/中 緩和ケア、早期に受けていれば	第三病院 総合診療部 助教 村瀬樹太郎
9月1日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学付属第三病院総合診療部の村瀬樹太郎医師の話	
9月1日	時事メディカル	日本で初めて開発された治療計画プログラムを付随した脳動脈瘤コイル留置用ステントが薬事承認	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山 雄一
9月2日	日本経済新聞	「微粒子」でがん・難病治療 新興エクスゾーム、23年治験申請 法規制や量産に課題	エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄
9月8日	時事メディカル	超高磁場MRIと神経トラクトグラフィーによる嗅神経の可視化に世界で初めて成功 ～嗅覚障害を診断するための新しい検査方法開発に期待～	耳鼻咽喉科学教室 助教 栗原 渉 助教 鄭 雅誠 教授 小島 博己 再生医学研究部 教授 岡野James洋尚 熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸 形成外科学講座 教授 宮脇 剛司 法医学講座 教授 岩橋 公晴
9月9日	時事メディカル	マゴットセラピーの新規医療用ウジの同定と評価方法を世界で初めて確立 ～難治性潰瘍などの治療に期待—東京慈恵会医科大学～	
9月13日	読売新聞(大阪版)	医なび＝ダウン症 大人の受診先不足課題 切れ目なく移行学会が手引 どんな病気? 合併症の治療	遺伝診療部 講師 竹内 千仙
9月15日	化学工業日報	医療用ウジ 系統評価法を確立 慈恵会医科大 臨床応用も視野	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸 形成外科学講座 教授 宮脇 剛司 法医学講座 教授 岩橋 公晴
9月15日	読売新聞	ニュースの門＝木 認知症 認知症になっても生き生きと 偏見払拭へ2004年に用語を変更	精神医学講座 繁田 雅弘
9月16日	厚生労働省ホームページ	戦没者遺骨鑑定センターの分室(DNA分析施設)を新設しました	法医学講座 嘱託教員 福井 謙二
9月16日	産経新聞(大阪版)	「戦没者遺骨鑑定の新施設 厚労省 遺族返還への体制強化	法医学講座 嘱託教員 福井 謙二
9月17日	産経新聞、長崎新聞 他	戦没者の遺骨鑑定体制強化で新施設 厚労省 自前でも分析	法医学講座 嘱託教員 福井 謙二
9月18日	日本経済新聞	蚊の嗅覚 手を焼く(鋭さ) 型破りセンサー 病気媒介の元	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸
9月20日	時事メディカル	シングルセル解析技術を用いCOPD患者における新規の2型肺胞上皮細胞を発見 ～COPD病態の解明が期待される 東京慈恵会医科大学～	内科学講座(呼吸器内科) 助教 渡邊 直昭 講師 藤田 雄 教授 荒屋 潤 講座担当教授 桑野 和善 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚 崇
9月23日	週刊ポスト	認知症の治療効果向上には自主性や周囲の協力が不可欠 進行を遅らせることは可能	精神神経科 教授 繁田 雅弘
9月25日	NHK Eテレ	サイエンスZERO 「恐ろしくも華麗な“蚊” 秘められたチカラを解明せよ!」	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸
9月26日	現代ビジネス	蚊に刺されても、なぜ気づかない? “人類最大の敵”の驚きの生態の「秘密」蚊は“華麗”な生き物だった…!	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸
9月26日	日刊工業新聞	肺疾患の一端解明 慢性閉塞性 炎症起こす細胞特定 慈恵医大など	呼吸器内科 講師 藤田 雄
9月26日	時事メディカル	肝がん早期診断の新規血液/バイオマーカーとして血清PKCδを同定 既存マーカー陰性例でも陽性例があり肝がん早期発見や予後向上に期待	内科学講座(消化器・肝臓内科) 講師 及川 恒一 教授 猿田 雅之 生化学講座 講師 山田 幸司 教授 吉田 清嗣 総合医学研究センター・基礎研究施設 教授 坪田 昭人 生化学講座 学部6年 本橋 沙耶 講師 山田 幸司 教授 吉田 清嗣 内科学講座(消化器・肝臓内科) 講師 及川 恒一 内科学講座(腎臓高血圧内科) 助教 春原浩太郎 准教授 坪井 伸夫 産婦人科学講座 助教 田畑 潤哉 講座担当教授 岡本 愛光
9月26日	時事メディカル	肝がんにおけるタンパク質の新しい分泌機構の解明～肝がんの早期発?や新規治療法への応用に期待～	
9月27日	時事メディカル	腎臓のネフロン数とポドサイト数が正相関することを世界で初めて解明 ～ポドサイト数を正確かつ簡便に測定する手法を確立～	
9月27日	時事メディカル	がんゲノム医療のさらなる拡大へ向けた一歩 ～コンピュータ解析で意義不明変異のなかに治療標的となる新たな遺伝子変異を発見～ 慈恵大学 国立がん研究センター 京都大学 筑波大学 東北大学 東京工業大学	
9月27日	日本経済新聞	国立がん研究センターなど、コンピュータ解析で意義不明変異のなかに治療標的となる新たな遺伝子変異を発見	産婦人科学講座 助教 田畑 潤哉 講座担当教授 岡本 愛光
9月28日	電波新聞	【関西エレクトロニクス産業特集】各社の事例紹介 島津製作所 医療分野で連携	
9月28日	電波新聞digital	【関西エレクトロニクス産業特集】関西でも産学連携が加速 最先端技術や製品、競争に打ち勝つキーに	
9月28日	時事メディカル	ROCK1が糖尿病性腎症の重要な治療標的であることを世界で初めて明らかに ～糖尿病性腎症に対するROCK阻害薬の臨床応用に期待～	糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 永井 洋介 講師 嶋圭一郎
9月28日	日経バイオテック	国立がん研究センター、がんゲノム医療のさらなる拡大へ向けた一歩、 コンピュータ解析で意義不明変異のなかに治療標的となる新たな遺伝子変異を発見	産婦人科学講座 助教 田畑 潤哉 講座担当教授 岡本 愛光
9月29日	医療ニュース	がん遺伝子RETの意義不明変異を解析、新たな治療標的となる変異を発見—国がん ほか	産婦人科学講座 助教 田畑 潤哉 講座担当教授 岡本 愛光
9月30日	科学新聞	嗅神経の3次元構造可視化 超高磁場MRIと神経トラクトグラフィー併用	耳鼻咽喉科学教室 助教 栗原 渉 助教 鄭 雅誠 教授 小島 博己 再生医学研究部 教授 岡野James洋尚
9月30日	科学新聞	「下肢切断を防げ」難治性潰瘍など治療期待 医療用ウジ系統評価手法を確立	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸 形成外科学講座 教授 宮脇 剛司 法医学講座 教授 岩橋 公晴
10月1日	東京新聞	願いつないで ASUKAモデルの10年(中) マニュアルが変えたもの 迷ったら「AED」世界へ【埼玉版】	救急医学講座 講座担当教授 武田 聡
10月4日	NHK BSP	“過労死”はなぜ起きるのか。	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
10月5日	日経バイオテック	慈恵医大、肝がん超早期マーカー-PKCδの有用性を確認	内科学講座 講師 及川 恒一 内科学講座 教授 猿田 雅之 生化学講座 講師 山田 幸司 生化学講座 教授 吉田 清嗣 基礎研究施設 教授 坪田 昭人

年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
10月5日	時事メディカル	中内耳CT(コンピューター断面撮影)を用いた中耳真珠腫進展範囲に関する人工知能診断システムの作成に世界で初めて成功	耳鼻咽喉科学講座 助教 高橋 昌寛 教授 山本裕 講座担当教授 小島 博己 放射線医学講座 助教 馬場 亮 講座担当教授 尾尻 博也
10月6日	QLifePro	「中耳真珠腫」の進展範囲をCTのみで診断するAIを開発、世界初—慈恵大ほか	耳鼻咽喉科学講座 助教 高橋昌寛 教授 山本 裕 講座担当教授 小島 博己 放射線医学講座 助教 馬場 亮 講座担当教授 尾尻 博也
10月7日	ABEMA TV	高次脳機能障害について	リハビリテーション医学講座 教授 渡邊 修
10月7日	時事メディカル	悪性高熱症を単一細胞レベルで再現することに世界で初めて成功! ～吸入麻酔薬や筋弛緩薬投与後の体温上昇メカニズム解明へ期待～	基礎研究施設 医学科 坪井 義高 准教授 山澤徳志子 細胞生理学講座 准教授 福田 紀男
10月8日	日本経済新聞オンライン	慈恵医大と東邦大、真珠腫性中耳炎の発症への神経堤由来細胞の関与を解明	耳鼻咽喉科学講座 講師 福田 智美 講座担当教授 小島 博己 解剖学講座 講師 辰巳 徳史 講座担当教授 岡部 正隆
10月11日	時事メディカルオンライン	慈恵医大と東邦大、真珠腫性中耳炎の発症への神経堤由来細胞の関与を解明	耳鼻咽喉科学講座 講師 福田 智美 講座担当教授 小島 博己 解剖学講座 講師 辰巳 徳史 講座担当教授 岡部 正隆
10月11日	QLifePro	悪性高熱症、麻酔投与による発症を単一細胞レベルで再現—慈恵大ほか	基礎研究施設 医学科 坪井 義高 准教授 山澤徳志子 細胞生理学講座 准教授 福田 紀男
10月13日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大 葛飾医療センター 小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
10月17日	静岡新聞、河北新報 他	におい伝える神経 可視化	耳鼻咽喉科学教室 助教 栗原 渉 助教 鄭 雅誠 教授 小島 博己 再生医学研究部 教授 岡野James洋尚
10月20日	時事メディカルオンライン	高齢化率世界一の日本のコロナ禍超過死亡率が低い要因を解明 ～コロナ禍前の60歳平均余命が長い国ほどコロナ禍超過死亡率は低い～	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳 耳鼻咽喉科学講座 助教 阿久津泰伴 分子疫学研究部 学生班 田中英美理 石原 大翔 分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
10月22日	日本経済新聞オンライン	平均余命長い国、コロナ下の超過死亡率低く 慈恵医大	
10月23日	朝日新聞Digital	集中できない、怒りっぽい…50万人が悩む「高次脳機能障害」とは	第三病院 リハビリテーション科 診療部長 渡邊 修
10月23日	日本経済新聞	コロナは何を変えたのか(3)「肺呼吸」に新たな能力を 肺への依存 リスク露呈	解剖学講座 講師 辰巳 徳史
10月24日	日本医事新報社	嗅覚障害【私の治療】	耳鼻咽喉科学講座 助教 森 恵莉
10月25日	ドクターゼ	医師への軌跡～無駄な経験は一つもない自分の興味を大切に～	医学部医学科 5年 大導寺 清世
10月31日	日経クロステック	慈恵医大などが中耳真珠腫のAI画像診断を実現、他の疾患にも応用	耳鼻咽喉科学講座 助教 高橋昌寛 教授 山本 裕 講座担当教授 小島 博己 放射線医学講座 助教 馬場 亮 講座担当教授 尾尻 博也
10月31日	日経産業新聞	コロナ下の超過死亡率、平均余命と相関 日本は平均より死者減少 慈恵医大	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
10月31日	朝日新聞	患者を生きたる(4420) 傷ついた脳(5) 情報編 目的決め 社会に参加を	第三病院 リハビリテーション科 診療部長 渡邊 修
11月1日	Science Japan	Jikei University and TMU achieve 3D structure visualization of olfactory nerve using a combination of ultra-high field MRI and nerve tractography	耳鼻咽喉科学教室 助教 栗原 渉 助教 鄭 雅誠 教授 小島 博己 再生医学研究部 教授 岡野James洋尚
11月2日	京都新聞 長崎新聞 他	におい伝える神経 可視化	耳鼻咽喉科学教室 助教 栗原 渉 助教 鄭 雅誠 教授 小島 博己 再生医学研究部 教授 岡野James洋尚 精神神経科 教授 繁田 雅弘
11月4日	時事メディカルオンライン	認知症は人生の終わりではない 一人受診、本人の会で変わる状況	
11月4日	Science Japan	Jikei University evaluates maggot debridement therapy with hopes of treating intractable ulcers: “Preventing the amputation of lower limbs”	熱帯医学講座 教授 嘉藤 洋陸 形成外科学講座 教授 宮脇 剛司 法医学講座 教授 岩橋 公晴
11月8日	時事メディカルオンライン	ヘルペスウイルスが宿主のDNAメチル化を引き起こすメカニズム ～単純ヘルペスウイルス1型感染がアルツハイマー病発症の危険因子を示唆～東京慈恵会医科大学	医学科4年生 小坂 瑞衣 ウイルス学講座 准教授 小林伸行 講座担当教授 近藤一博
11月10日	Science Japan	Jikei University School of Medicine discovers new protein secretion mechanism that holds promise for the early diagnosis of liver cancer	生化学講座 講師 山田 幸司 内科学講座(消化器・肝臓内科) 講師 及川 恒一
11月10日	CareNet	高齢化率世界一の日本のコロナ禍超過死亡率が低いのは?／東京慈恵医大	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
11月12日	産経ニュース	【びっくりサイエンス】高齢化進む日本 「コロナで死亡」が低い理由	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
11月16日	DIAMOND online	【コロナ後遺症患者は数百万人!? 認知症薬「ドネペジル」に治療を期待できる理由	ウイルス学講座 教授 近藤 一博
11月16日	時事メディカルオンライン	在宅療養高齢患者さんの在宅での薬積発生率と要因を多施設共同の追跡調査で明らかに! ～在宅療養高齢患者さんと医療者、そして医療政策担当者への基礎的資料を提供～	総合医学研究センター 臨床疫学研究部 教授 松島雅人
11月17日	医療NEWS QLife Pro	在宅療養高齢者の在宅死、在宅療養が長期化しても増加しない傾向—慈恵大ほか	総合医学研究センター 臨床疫学研究部 教授 松島雅人
11月18日	日経バイオテック	東京医科歯科大、「キサンタンガム系とろみ調整食品が食後血糖の上昇を抑制」 —腸管の糖・脂質代謝関連遺伝子発現や腸内細菌叢を変化させることが明らかに—	総合医学研究センター 分子遺伝学研究部 准教授 廣田朝光
11月19日	Yahooニュース	脳卒中の治療までの時間が60分短縮 地方医師が頼りにする救命アプリと医療DX	先端医療情報技術研究所/脳神経外科 准教授 高尾洋之
11月21日	BtoBプラットフォーム業界ch	睡眠時無呼吸症候群の罹患率がコロナ感染リスクを高める可能性を指摘	耳鼻咽喉科学講座 客員教授 千葉 伸太郎
11月22日	化学工業日報	キサンタンガム系 とろみ調整食品 血糖値上昇を抑制 腸内細菌叢も変化 東京医科歯科大 慈恵会医科大	総合医学研究センター 分子遺伝学研究部 准教授 廣田朝光



年月	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
11月22日	QLife Pro	キサンタンガム系とろみ調整食品で食後血糖上昇抑制、ラットモデルでー東京医歯大ほか	総合医学研究センター 分子遺伝学研究部 准教授 廣田朝光
11月24日	朝日新聞	患者を生きた ラインゾーム病と新薬(2)30歳まで生きられない?	特命教授 井田博幸
11月25日	朝日新聞	患者を生きた ラインゾーム病と新薬(3)30歳まで生きられない?	特命教授 井田博幸
11月28日	朝日新聞	患者を生きた ラインゾーム病と新薬(4)16年待った治療 開始	特命教授 井田博幸
11月29日	朝日新聞	患者を生きた ラインゾーム病と新薬(5)情報編 酵素補充療法 開発進む薬	特命教授 井田博幸
11月30日	読売新聞	医療を目指す高校生へ 6大学がオンラインセミナー 1400人参加	耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師 大村和弘

## 生涯学習・公開セミナー等

## 慈恵医大生涯学習センター

## 慈恵医大 生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

## 月例セミナー

- 開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月)  
16:00~18:00
- 場所 附属病院(本院)  
中央棟8階会議室

第263回	
月 日	2023年4月8日(土)
時 間	16:00~17:00
テーマ	慢性疾患に対する個別化食事指導 ～臨床研究の成果と今後の展望～
演 者	糖尿病・代謝・内分泌内科 大村 有加
時 間	17:00~18:00
テーマ	肥満代謝改善手術の現状
演 者	上部消化管外科 宇野 耕平

第264回	
月 日	2023年6月10日(土)
時 間	16:00~17:00
テーマ	うつ病の基本とrTMS療法
演 者	精神神経科 山崎 龍一
時 間	17:00~18:00
テーマ	難治性てんかん療法としての反復性 経頭蓋磁気刺激の試み
演 者	脳神経外科 海渡 信義

第265回	
月 日	2023年11月11日(土)
時 間	16:00~17:00
テーマ	心不全治療の変遷
演 者	循環器内科 名越 智古
時 間	17:00~18:00
テーマ	心臓CT
演 者	画像診断部 大内 厚太郎

注)一部変更することもあります。

第43回慈恵医大夏季セミナー  
東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム  
は2023年9月に予定しています。

お問合せ先:生涯学習センター  
TEL : 03-3433-1111 (大代表)内線2634

## 慈恵医師会

## 慈恵医師会産業医研修会

2023年2月26日(日)、6月4日(日)に開催いたします。

(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

## お問合せ先:慈恵医師会

TEL : 03-3433-1111 (大代表)内線2636

## 附属病院(本院)

2022年度 みんなの健康教室  
今こそ始めよう! 生活週間革命!

(共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)  
●開催時間 14:00~15:15(開場13:30)  
●場所 NHK放送博物館  
愛宕山8Kシアター

第6回	
月 日	2023年3月18日(土)
テーマ	口腔からはじめる生活習慣病予防
演 者	歯科 杉山 雄紀 先生(助教/診療医員)
テーマ	生活習慣病からあなたを守る口腔ケア
演 者	佐々木 てるみ 歯科衛生士

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室  
TEL:03-5400-1202(直通)

## 医療連携フォーラム

- 日時 2023年3月2日(木)  
19:00~20:30
- テーマ コロナ猛威で何が見え医療は  
何処に進むのか  
ーパンデミック後の地域医療と  
連携を共に考えるー
- 会場 Webにて開催(Zoom)  
「コロナ禍からの地域医療の  
在り方と連携について」
- 講演1 地域医家 かかりつけ医の立場から  
医療法人社団松柏会  
藤田クリニック院長  
港区医師会前会長  
藤田 耕一郎
- 講演2 地域医家 地域病院の立場から  
特定医療法人社団潤恵会  
敬仁病院  
柳沼 樹宏
- 特別講演 「どうなるのか?日本の医療、そして地域医療  
ー俯瞰してわかる問題点とその解決方策ー」  
東京医科歯科大学名誉教授  
医療法人社団崎陽会  
日の出ヶ丘病院 院長  
河原 和夫

## 寄付のお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、  
心から厚く御礼申し上げます。

2020年2月に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、勢いは減少しつつも、依然として本学の臨床、教育、研究に影響を与えており、今後の見通しも難しい状況です。このような厳しい状況において、皆様から様々なご支援、ご協力をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

現在、第三病院の建替えについて計画から実施へと準備を進めているところです。地域社会に貢献する使命を有した病院として様々な機能や設備が検討されています。また、学生教育の一層の発展を図るべく、国領校の建替えも控えています。これらを実施していくためには多額な資金が必要となり大学は今まで以上に自助努力をして参りますが、資金の調達にも限度があります。ご寄付について引続き、関係各位のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナースポードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

## 寄付者名簿

・2022年6月1日~2022年10月31日の寄付者

## ● 企業等

合同会社 フィールドビレッジ  
野村達也

## ● 同窓生

舟田彰  
村田守昭

## ● 同窓会支部会・クラス会

昭和45年卒業生一同  
昭和46年卒業生一同

## ● 父兄

富藤雅之  
安富大祐

## ● 保護者会

東京慈恵会医科大学医学科  
保護者会  
会長 溝渕杏子

## ● 一般個人

内田賢二  
大津輝子  
片野愛子  
立川誠二  
戸谷克昌  
中津留由佳  
村上武男



ガバナンス

学校法人 慈恵大学 **行動憲章**

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 **行動規範**

- (目的)  
第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。
- (基本理念)  
第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。
- (法令の遵守)  
第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。
- (人間の尊重)  
第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。
- (取引業者との関係)  
第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。
- (反社会的勢力との関係)  
第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。
- (過剰な接待受容の禁止)  
第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受容を禁止する。
- (環境保護)  
第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。
- (公私の区別)  
第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

- (日常の業務処理)  
第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。
2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
  3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
  4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。
- (虚偽の報告・隠蔽)  
第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。
- (教育・指導)  
第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。
- (告発)  
第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。
2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。
- (監査・報告)  
第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。
- (違反の処理)  
第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。
- 附 則
1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
  2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。  
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099  
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
TEL 03-3603-2111(代表) 内線5145  
FAX 03-3690-7474(直通)



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1  
TEL 03-3480-1151(代表) 内線3804、3830  
FAX 03-3430-3611(直通)



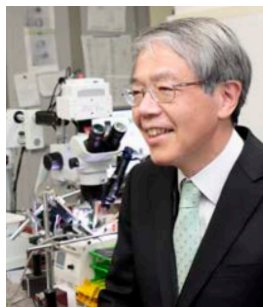
柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1  
TEL 04-7164-1111(代表) 内線2158  
FAX 04-7164-1197(直通)





## 竹森 重

Shigeru Takemori

東京慈恵会医科大学 医学部医学科長・教学委員長  
分子生理学講座担当教授

### 医学科理念「医学は学と術と道とより成る」

医学科の理念を、阿部正和元学長の言葉を借りて「医学は学と術と道とより成る」と昨年定めた。学問と技術と心の修練によって、人類の健康と福祉を求めてやまない良医を育てよう、という理念である。その達成に向けた「医学科達成指針」に沿って目標に達した学生に学位を授与するというのが医学科のディプロマポリシーである。

基本的な「学」や「術」の修得はそれぞれ医学科達成指針の5本柱の一つだが、残る3つの柱は「道」の修練を求めるものである。情報通信技術や人工知能が「病気を診る」ための支援を提供する時代にあって、「病人を診る」ための「道」の修練はますます重要になろう。

「道」の教育の実質化に加え、「学」を「術」に活きる形に消化・熟成させる機会を提供するために、演習・実習型の教育の拡充を目指していた。そこにコロナ禍対応でe-Learningシステムが本格稼働したことにより、知識伝達型の講義を学習者の個性に合わせたオンデマンドでの自律学習に効率化することが可能になった。演習・実習型授業を拡充する余地が思いがけず生まれたのである。この余地を利用してまずは2年後期から4年前期にわたる症候病態演習を創設し、初年次教養ゼミを全学年へと拡張した。

このあとについての私的な希望を述べるなら、講義型ユニットへの演習授業の導入と、「術」や「道」の修練を正当に評価できる柔軟な評価システムへの検討がなされることに期待している。

#### 経歴

- 1985年 東京慈恵会医科大学 生理学第1助手/講師
- 2007年 東京慈恵会医科大学 分子生理学講座 准教授
- 2010年 東京慈恵会医科大学 分子生理学講座 教授

#### 主な研究テーマ

- ・ X線解析法による横紋筋タンパク質の構造解析
- ・ 比熱測定による筋収縮エナジェティクス
- ・ 構造・力学的解析法による横紋筋機能解析
- ・ 骨格筋の病的萎縮の機序と予防法及び再生促進機構の探求
- ・ 遺伝性疾患の原因となる変異タンパク質の分子動力学解析
- ・ 運動療法や運動競技中の動作パフォーマンスを評価する手法の開発

#### 社会的活動他

- ・ Journal of Physiological Sciences誌編集委員
- ・ 体力科学誌・Journal of Physical Fitness and Sports Medicine誌編集委員
- ・ Jikeikai Medical Journal誌編集委員
- ・ 日本生理学会理事
- ・ 日本体力医学会理事
- ・ 日本生物物理学会分野別専門委員



東京慈恵会医科大学 医学部医学科  
<http://www.jikei.ac.jp/univ/igaku/>



### 編集後記

本学の看護学科は昨年開設30周年を迎え、10月8日に記念式典、記念講演、祝賀会が開催されました。本号では看護学科30年のあゆみを振り返るとともに、今行われている変革への取り組み、未来に向けた看護人材の育成についてご紹介しました。医学科と看護学科が医学部の中にあるという、他大学には例がなかった看護学科の過去、現在、未来をご理解いただければ幸いです。

その他にも、認定遺伝カウンセラーの育成、ヒトiPS細胞由来の内耳オルガノイドを利用した難聴の治療方法開発、内視鏡での肥満治療といった本学が取り組む「教育」、「研究」、「診療」の最新の取り組み、東京慈恵会教務主任養成講習会の10年間の歩み、2023年度に予定されている大学の認証評価と内部質保証についてもご紹介しています。

また、本号では2022年に始まったドッグセラピー「慈恵犬」での取り組みも取り上げました。「そらまめ」「ナツ」「ボス」と名付けられた3頭の犬が、新外来棟の新橋側の入り口で外来患者の方々やそのご家族を出迎え、人々に癒やしを与えています。本学の伝統と文化に根付いた治療法の一つと言えるでしょう。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 浅野 晃司

発行 学校法人 慈恵大学  
 発行人 理事長 栗原 敏  
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
 学校法人 慈恵大学 広報課  
 TEL 03-3433-1111(大代表)  
 FAX 03-5400-1281  
 e-mail koho@jikei.ac.jp  
 号数 第39号  
 発行日 2023年2月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>